

平成23年度 「みやざき小中学校学力・意識調査」 分析結果



目次

I	調査の概要	
1	実施の概要	1
2	学力調査の結果	2
3	意識調査の結果	3
4	分析の概要	4
II	各教科の分析結果	
II-1	小学校 各教科の分析	5
1	小学校5年：国語	5
2	小学校5年：社会	9
3	小学校5年：算数	13
4	小学校5年：理科	17
II-2	中学校 各教科の分析	21
1	中学校2年：国語	21
2	中学校2年：社会	25
3	中学校2年：数学	29
4	中学校2年：理科	33
5	中学校2年：英語	37
III	意識調査の分析結果	
III-1	小学校	41
	「授業」に関すること	41
	「学習」に関すること	42
	「生活」に関すること	43
	「自分」に関すること	44
III-2	中学校	45
	「授業」に関すること	45
	「学習」に関すること	46
	「生活」に関すること	47
	「自分」に関すること	48
※付録	数値についてもっと知りたい!	49
※付録	A層～D層についてもっと知りたい!	50

I 調査の概要

1 実施の概要

調査目的	県内の小・中学校、中等教育学校（前期課程）及び特別支援学校の小・中学部における学力の実態を把握・分析し、その結果をもとに、児童生徒の学力向上に総合的に取り組む。
実施日	平成23年4月19日（火）・20日（水）
調査対象校	市町村立小学校 240校（小学校 7校 対象児童なし） 市町村立中学校 133校（中学校 1校 対象生徒なし） 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 宮崎大学教育文化学部附属小・中学校 特別支援学校 3校（2小学部・2中学部） （小学校 10,839人、中学校 10,761人）
対象学年	小学校（小学部）第5学年
	中学校（中学部）第2学年
調査実施内容	<学力調査> ○ 小学校（小学部）第5学年 国語、社会、算数、理科 ○ 中学校（中学部）第2学年 国語、社会、数学、理科、英語 ※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。
	<意識調査> ○ 小学校（小学部）第5学年、中学校（中学部）第2学年 ※ 学習に対する意欲や取組の状況、学習習慣や学習を支える基礎となる体験の状況、読書の状況等について、アンケート方式で調査を実施し、学力調査結果とのクロス分析を行う。

2 学力調査の結果

■ 小学校第5学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全県	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
			A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	64.2	31.9	45.7	18.5	4.0
	社会	62.5	32.6	42.7	18.3	6.5
	算数	60.9	27.5	45.4	22.4	4.7
	理科	72.0	52.5	35.4	9.7	2.4
達成率	国語	47.8	100.0	34.9	0.0	0.0
	社会	43.4	100.0	25.3	0.0	0.0
	算数	33.5	100.0	13.3	0.0	0.0
	理科	59.2	100.0	18.9	0.0	0.0

■ 中学校第2学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全県	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
			A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	55.6	17.8	43.2	32.3	6.7
	社会	50.0	13.4	39.6	36.9	10.1
	数学	54.0	25.4	32.0	27.6	14.9
	理科	45.5	7.9	36.2	38.9	17.1
	英語	57.7	24.7	41.5	24.7	9.1
達成率	国語	32.7	100.0	34.5	0.0	0.0
	社会	26.0	100.0	31.7	0.0	0.0
	数学	36.0	100.0	33.2	0.0	0.0
	理科	18.6	100.0	29.5	0.0	0.0
	英語	41.5	100.0	40.5	0.0	0.0

※ 到達度とは、各所属の児童生徒が正答及び準正答である問題数の割合を示したものである。「平均到達度」とは、児童生徒の到達度を平均した数値を示したものである。

※ 学習到達度調査におけるA層・B層・C層・D層は、県内の児童生徒の各調査教科における最高点（到達度）と最低点（到達度）の範囲を上位の得点から4等分して表示したものである。

※ 「全県の階層に含まれる児童生徒の割合」とは、県全体の各階層に、所属の児童生徒がそれぞれ何%含まれているかを示したものである。

※ 「達成率」とは、到達度が目標値に達している児童生徒の割合を示したものである。目標値とは、各教科、各問題ごとに設定されためざす値（設定通過率）の平均を示したものである。

※ A層～D層については、意識調査と学力の関連をみるときに有効である。

3 意識調査の結果

■ 小学校第5学年の肯定的回答の割合

□ 学習意識調査

(%)

	全県	全県の階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合			
		A層	B層	C層	D層
授業に関すること	85.4	90.3	85.2	78.9	70.5
学習に関すること	57.6	60.3	57.3	54.6	49.6
生活に関すること	69.0	72.9	68.6	64.3	57.5
自分に関すること	87.4	91.6	87.6	81.4	70.5

■ 中学校第2学年の肯定的回答の割合

□ 学習意識調査

(%)

	全県	全県の階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合			
		A層	B層	C層	D層
授業に関すること	78.7	85.0	81.1	75.8	66.9
学習に関すること	56.6	60.9	59.1	54.6	44.8
生活に関すること	58.5	61.9	60.0	56.7	52.7
自分に関すること	83.0	86.6	85.1	81.5	73.1

※ 肯定的回答の割合

学習意識調査におけるA層・B層・C層・D層は、全調査教科(小学校4教科、中学校5教科)の合計到達度における最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を上位から4等分して表示したものであり、各層の児童生徒が学習意識調査において、肯定的に回答した人数の割合を表している。

4 分析の概要

■ 学力に関する分析

□ 小学校の算数、中学校の社会、理科に課題がみられる。

小学校の算数について、目標値に到達した受検者の割合（＝達成率）が低い。中学校の社会、理科についても同様である。これらの教科については、設問別通過率の低い問題を分析し、児童生徒のつまずきの原因を把握して授業改善の手立てを講じ、今後の指導に生かすことが大切である。

□ 小学校と中学校で、全県の各階層に含まれる児童生徒の割合にばらつきがみられる。

小学校の全教科について、全県の各階層に含まれる児童の割合を見ると、理科はA層に含まれる児童の割合が高く、国語、社会、算数の3教科は、B層に含まれる児童の割合が高い。中学校では国語、社会、数学、英語の4教科は、B層に含まれる生徒の割合が高く、理科はC層に含まれる児童の割合が高い。小・中学校ともに、各教科の到達度分布状況を細かく分析し、特にC層、D層の児童生徒に対して、より一層個に応じたきめ細かな指導を行うことが大切である。

■ 意識に関する分析

□ 「学習」と「生活」に関する項目に課題がみられる。

小・中学校ともに、肯定的な回答をした割合が低いのは、「学習」及び「生活」に関する項目であり、昨年度と同様の傾向が見られる。「家庭学習の仕方」や「学校以外での過ごし方」など、学校以外での学習や生活に対して、家庭と協力して指導を行うことが大切である。

□ 小学校及び中学校の「授業」に関する項目に課題がみられる。

昨年度と比較すると、小・中学校ともに「学習」に関する肯定的な回答が1.3ポイント上回っている。小学校では、「授業」に関する肯定的な回答をした児童は昨年度を1.0ポイント下回っている。中学校では、全ての項目で、昨年度よりも肯定的な回答をした生徒の割合は増えているが、A層とD層の差が大きく、学校や家庭での学習の仕方等について、具体的な指導が大切である。

■ 学力と意識の関係分析

□ 小学校では「授業」と「自分」、中学校では「授業」と「学習」に関する項目で、学力との関連がみられる。

意識調査において、A層とD層の肯定的な回答に大きな差がみられる項目は、小学校では「授業」、「自分」、中学校では「授業」、「学習」に関する項目である。特に、小・中学校ともに、「授業」に関する項目で、学力と意識との間に深い関連がみられる。小・中学校ともに、学力が高いと意識も肯定的である傾向にある。

□ 小学校と中学校で、肯定的な回答をした児童生徒の割合と学力に関連がみられる。

全県の各階層に含まれる児童生徒で肯定的な回答をした割合をみると、小学校の「学習」に関する項目以外、小・中学校ともに、全ての項目で、県の平均到達度がB層からC層の間にあり、学力との関連がみられる。このことから、小学校では、特に、下位層の児童に対して、自分の将来への夢や希望をもたせたり、自己肯定感をもたせたりする指導を行うことが大切である。また、中学校では、下位層の生徒に対して、学習の習慣や方法を身に付けさせる指導を行うことが大切である。

II 各教科の分析結果

II-1 小学校 各教科の分析

1 小学校5年:国 語

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

観点・領域・分類		全 県	全 県 の 階 層 に 含 ま れ る 児 童 生 徒 の 平 均 到 達 度 等				
			A 層	B 層	C 層	D 層	
平均到達度	観点	教科全体	64.2	84.6	64.4	39.2	14.4
		読む能力	61.3	84.9	61.6	30.5	12.2
		書く能力	50.0	84.3	45.8	11.5	2.8
		言語についての知識・理解・技能	68.2	84.1	68.3	51.1	19.1
	領域	話す・聞く能力	63.2	85.5	64.7	33.0	7.7
		読むこと	61.3	84.9	61.6	30.5	12.2
		書くこと	50.0	84.3	45.8	11.5	2.8
		言語事項	68.2	84.1	68.3	51.1	19.1
	分類	話すこと・聞くこと	63.2	85.5	64.7	33.0	7.7
		基礎的・基本的な内容	68.5	84.5	68.6	50.9	19.6
		課題を解決する力	63.3	85.7	64.4	33.1	11.7
		活用する力	48.7	80.6	45.6	11.4	2.4
達成率	観点	教科全体	47.8	100.0	34.9	0.0	0.0
		読む能力	46.6	95.5	35.0	0.9	0.0
		書く能力	50.0	84.3	45.8	11.5	2.8
		言語についての知識・理解・技能	49.8	91.2	42.2	7.8	0.0
	領域	話す・聞く能力	71.4	96.9	76.7	28.8	3.5
		読むこと	46.6	95.5	35.0	0.9	0.0
		書くこと	50.0	84.3	45.8	11.5	2.8
		言語事項	49.8	91.2	42.2	7.8	0.0
	分類	話すこと・聞くこと	71.4	96.9	76.7	28.8	3.5
		基礎的・基本的な内容	45.3	89.4	35.2	3.8	0.0
		課題を解決する力	49.9	97.1	41.3	0.6	0.0
		活用する力	50.7	90.9	45.4	5.1	0.9

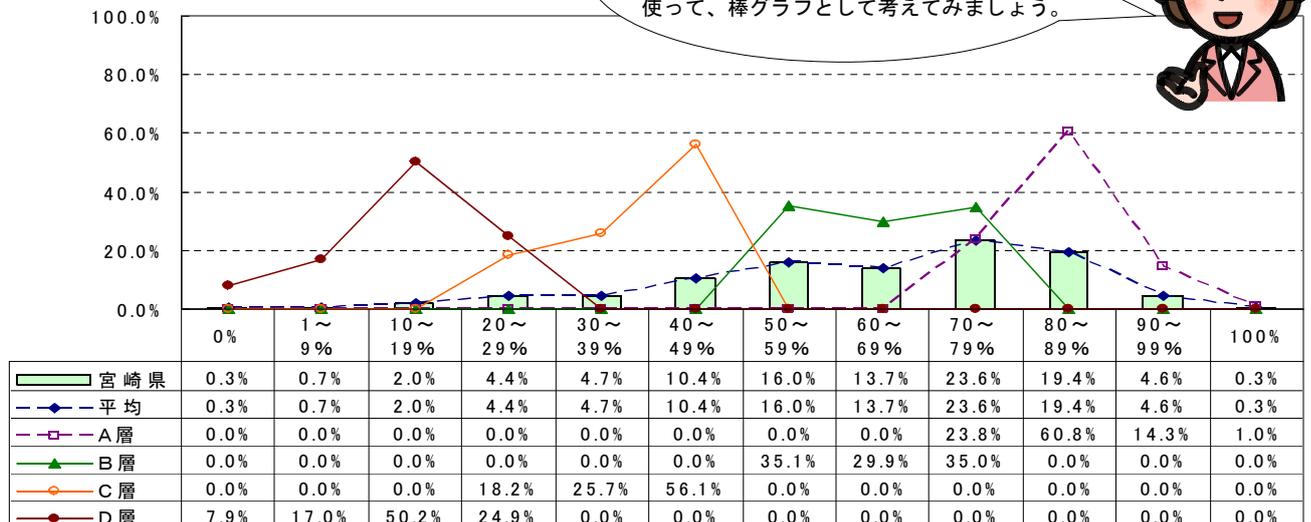
目標値		達成率
観点	教科全体	68.3
	読む能力	69.1
	書く能力	60.0
	言語についての知識・理解・技能	70.4
領域	話す・聞く能力	60.0
	読むこと	69.1
	書くこと	60.0
	言語事項	70.4
分類	話すこと・聞くこと	60.0
	基礎的・基本的な内容	71.2
	課題を解決する力	69.5
	活用する力	51.7



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況

70～79%が最も多かったことがわかります。
各層と県との到達度の分布の比較をするために
折れ線グラフの線ではなく、グラフのプロットを
使って、棒グラフとして考えてみましょう。



■ 設問別解答状況一覧

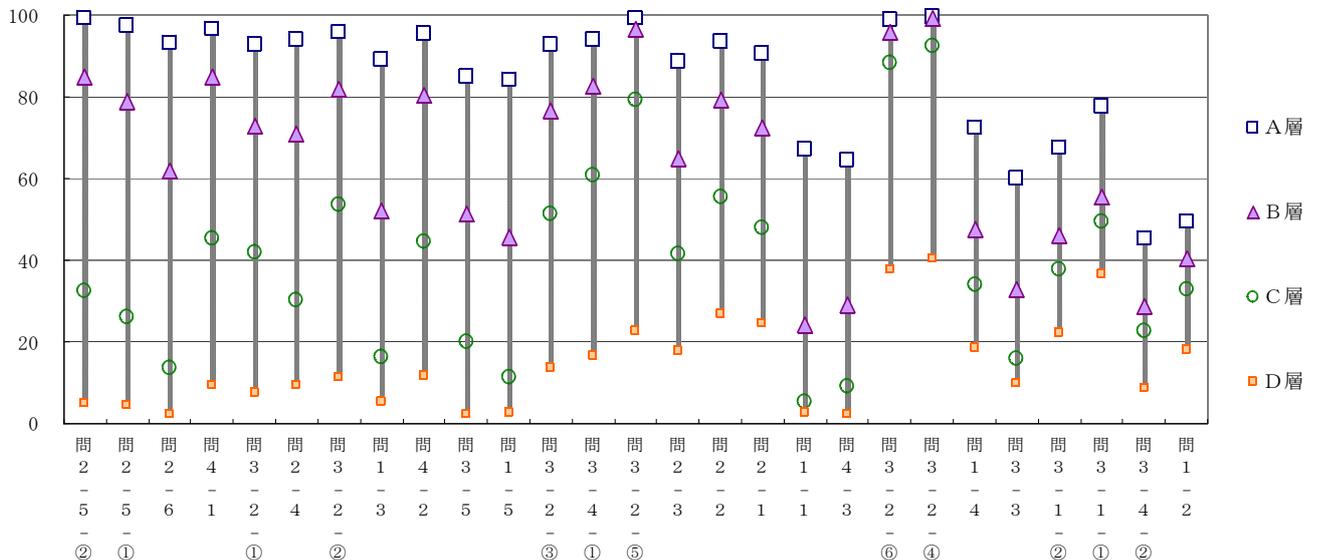
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	内容の理解	読むこと	読む能力	B1	33.6	67.3	24.3	5.4	2.6	64.7	11.9
2	1	2	内容の理解	読むこと	読む能力	B1	40.9	49.5	40.2	32.8	18.1	31.4	2.3
3	1	3	心情の理解	読むこと	読む能力	B1	55.4	89.1	52.1	16.1	5.3	83.8	18.5
4	1	4	心情の理解	読むこと	読む能力	B1	51.8	72.5	47.6	33.9	18.4	54.1	8.3
5	1	5	叙述をもとにした想像	書くこと	書く能力	B2	50.0	84.3	45.8	11.5	2.8	81.5	25.2
6	2	1	接続語の選択	読むこと	読む能力	A	71.8	90.5	72.6	47.8	24.4	66.1	0.6
7	2	2	文章構成の理解	読むこと	読む能力	B1	77.2	93.5	79.2	55.4	26.7	66.8	1.0
8	2	3	適語補充	読むこと	読む能力	B1	66.2	88.8	64.7	41.5	17.7	71.1	1.6
9	2	4	指示する内容の理解	読むこと	読む能力	B1	68.2	93.9	70.9	30.2	9.3	84.6	11.4
10	2	5	指示する内容の理解	読むこと	読む能力	B1	72.1	97.2	79.0	26.2	4.7	92.5	11.5
11	2	5	内容の理解	読むこと	読む能力	B1	76.5	99.1	84.9	32.4	4.9	94.2	15.7
12	2	6	内容の理解	読むこと	読む能力	B2	60.6	93.2	61.9	13.7	2.3	90.9	22.3
13	3	1	筆順の理解	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	60.7	77.8	55.4	49.4	36.5	41.3	0.8
14	3	1	筆順の理解	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	50.4	67.6	45.9	37.9	22.1	45.5	1.0
15	3	2	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	70.9	92.9	72.8	42.0	7.7	85.2	8.8
16	3	2	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	78.3	96.0	81.8	53.5	11.4	84.6	10.2
17	3	2	漢字の書き	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	74.6	92.7	76.7	51.4	13.5	79.2	7.6
18	3	2	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	95.7	99.7	99.1	92.4	40.5	59.2	2.5
19	3	2	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	91.3	99.4	96.5	79.4	22.6	76.8	2.7
20	3	2	漢字の読み	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	93.1	98.7	95.8	88.4	37.9	60.8	1.9
21	3	3	漢字辞典の用法	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	37.5	59.9	33.0	15.7	9.8	50.1	2.1
22	3	4	修飾・被修飾の関係	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	79.7	94.1	82.7	60.8	16.7	77.4	4.3
23	3	4	修飾・被修飾の関係	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	31.9	45.1	28.5	22.8	8.6	36.5	4.6
24	3	5	ローマ字の知識	言語事項	言語についての知識・理解・技能	A	54.2	84.8	51.2	19.9	2.3	82.5	14.5
25	4	1	メモをもとにした学年集会での伝え方	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B1	78.3	96.7	84.9	45.3	9.5	87.2	8.0
26	4	2	メモをもとにした学年集会での伝え方	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B1	75.7	95.3	80.4	44.4	11.6	83.7	5.2
27	4	3	メモをもとにした学年集会での伝え方	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B2	35.5	64.4	28.9	9.2	2.1	62.3	17.6

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 話す・聞く能力** — 話す相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら、筋道を立て、適切に話すことができるかどうかをみる問題。
 (例) ■聞き手を意識した話し方を理解する。
 ■絵や図などを効果的に使い、聞き手にわかりやすく説明する。
- 書く能力** — 登場人物の心情を正しくとらえて書くことができるかどうかをみる問題。
 (例) ■登場人物の心情を想像しながら会話文を書く。
- 読む能力** — 書かれている内容を理解するための基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。
 (例) ■叙述を基に登場人物の心情をとらえたり、内容を正しく読み取ったりする。
 ■目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、自分の考えを明確にしながらかきだりする。
- 言語についての知識・理解・技能** — 言語事項に関する基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。
 (例) ■文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりする。
 ■漢字辞典の利用方法を理解する。

■ 課題等

話すこと・聞くこと

- ◇ 話すこと・聞くことの平均到達度は63.2%で、領域の目標値60.0%を上回っている。
- ◆ 実生活場面における活用の問題（大問4小問3）は設問別通過率が35.5%で、聞き手にわかりやすく説明するために、資料をどのように効果的に活用するかに課題がある。

書くこと

- ◆ 書くことの平均到達度は50.0%で、領域の目標値60.0%をかなり下回っており、文章をしっかりと読み取った上で、登場人物の心情を想像しながら会話文を書くことに課題がある。書くことについては、中学校でも同様の傾向がみられる。

読むこと

- ◆ 読むことの平均到達度は61.3%で、領域の目標値69.1%を下回っており、文学的な文章を読むことに課題が多くみられる。
- ◇ 説明的な文章で接続語を選択する問題、文章構成をとらえる問題、指示する内容をとらえる問題は、領域の目標値を上回っている。
- ◆ 文学的な文章で登場人物の心情を理解する問題（大問1小問3、4の設問別通過率の平均53.6%）、内容を理解する問題（大問1小問1、2の設問別通過率の平均37.3%）は、領域の目標値をかなり下回っている。叙述を基に登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりをとらえることに課題があり、中学校でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 文章の重要な点を的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などに合わせてまとめることに課題がある。

言語事項

- ◇ 漢字を正しく読む問題（大問3小問2④⑤⑥の設問別通過率の平均93.4%）は、領域の目標値70.4%をかなり上回っている。
- ◆ 修飾・被修飾の関係を正確に理解すること、基本的なローマ字の知識を理解すること、漢字辞典の正しい使い方を理解することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 相手や目的に応じて、調べたことなどを筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする言語活動の充実
 - ・ 話すときには、話す目的を明確にして、自分が調べたことや自分が考えたことを相手にわかりやすく伝えるために、構成や内容を工夫するよう指導することが大切である。
 - ・ 話すときには、自分の話が伝わっているかどうか、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりするよう指導することが大切である。
 - ・ 聞くときには、質問したり感想を述べたりしながら、必要な事柄はメモをするなど、話の中心がどのようなことか、気を付けて聞くよう指導することが大切である。

書くこと

- 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成を考えて文章を書く言語活動の充実
 - ・ 書く相手や目的を考えて、中心となる内容や段落の構成を考えながら書くよう指導することが大切である。
 - ・ 原因や理由について記述する場合は、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためである」などの表現を、事例について記述する場合は、「例えば～」、「事例を挙げると～」、「～などが当たる」などの表現ができるよう指導することが大切である。
 - ・ 疑問に思ったことを調べて報告する文章や、収集した資料を効果的に使って説明する文章を書いたり、身近なことや想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりするよう指導することが大切である。

読むこと

- 叙述を基に登場人物の相互関係や心情・場面の移り変わりをとらえる言語活動の充実
 - ・ 登場人物の行動や会話、情景描写に注意しながら、登場人物相互の関係や心情の変化を読み取らせることが大切である。
 - ・ 「読むこと」の領域の学習指導を行うに当たっては、読み取った内容を条件に応じて書くような活動を1単位時間の中に設定し、理解をより一層深める指導を行うことが大切であり、小学校から中学校まで一貫して指導することが必要である。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえる言語活動の充実
 - ・ 文章の内容を的確に押さえるために、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに注意して読み進めていくことが大切である。

言語事項

- 文及び文章の構成について正しく理解する言語活動の充実
 - ・ 主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係をはっきりさせるとともに、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるよう指導することが大切である。
- 国語辞典や漢字辞典などを日常的に活用する言語活動の充実
 - ・ 国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境を整えておくことが重要である。

2 小学校5年:社 会

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

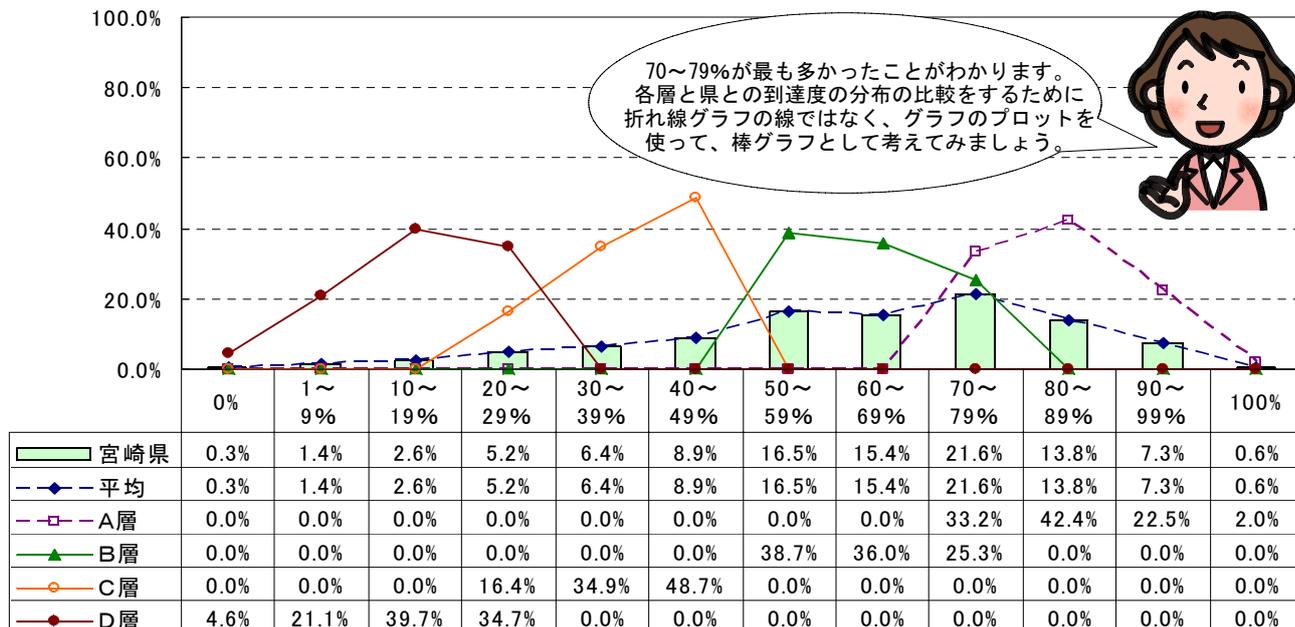
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	62.5	84.9	62.7	38.6	15.0
		知識・理解	68.9	90.1	70.2	45.8	19.1
		資料活用	60.5	83.2	60.5	36.6	14.5
		思考・判断	58.1	81.6	57.6	33.7	11.7
	領域	県の様子	64.6	88.3	64.9	38.7	16.5
		安全を守る工夫	78.8	93.8	83.0	60.5	27.2
		身近な地域	66.7	85.0	68.3	47.8	17.3
		生産や販売の仕事	64.9	87.4	66.8	39.2	12.0
		人々の生活	47.3	74.7	43.8	21.0	6.5
	分類	基礎的・基本的な内容	66.2	87.4	67.3	43.3	17.1
		課題を解決する力	63.2	85.6	63.3	39.4	16.7
		活用する力	51.4	77.4	49.5	25.1	7.7
達成率	観点	教科全体	43.4	100.0	25.3	0.0	0.0
		知識・理解	43.3	88.2	33.3	2.1	0.0
		資料活用	37.4	84.9	22.8	0.3	0.0
		思考・判断	38.0	84.6	24.0	0.9	0.0
	領域	県の様子	37.6	83.4	23.8	1.0	0.0
		安全を守る工夫	69.0	90.7	74.8	38.5	7.1
		身近な地域	51.5	84.7	49.1	16.1	0.7
		生産や販売の仕事	60.6	92.8	61.7	21.5	2.0
		人々の生活	21.5	58.5	5.5	0.2	0.0
	分類	基礎的・基本的な内容	38.5	90.9	20.8	0.0	0.0
		課題を解決する力	46.1	90.7	37.4	3.2	0.0
		活用する力	35.6	79.2	22.2	1.5	0.0

目標値	観点	教科全体	70.4
		知識・理解	74.5
		資料活用	72.1
		思考・判断	64.5
	領域	県の様子	75.9
		安全を守る工夫	72.0
		身近な地域	63.0
		生産や販売の仕事	67.5
		人々の生活	68.3
	分類	基礎的・基本的な内容	73.9
		課題を解決する力	70.0
		活用する力	61.4



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

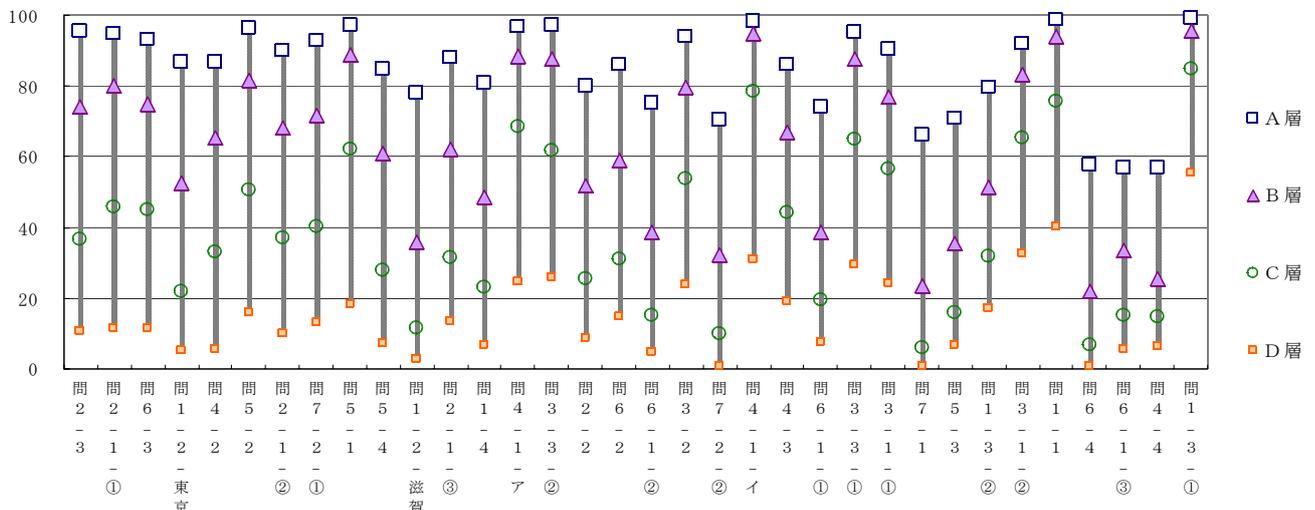
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	都道府県の特徴	県の様子	知識・理解	A	88.8	99.0	94.1	75.6	40.4	58.6	6.4
2	1	2	都道府県の特徴	県の様子	知識・理解	A	55.1	86.7	52.7	22.1	5.1	81.6	16.3
3	1	2	都道府県の特徴	県の様子	知識・理解	A	43.0	77.9	35.8	11.7	2.6	75.3	20.6
4	1	3	都道府県の特徴	県の様子	知識・理解	A	92.2	99.1	95.6	85.0	55.5	43.6	1.0
5	1	3	都道府県の特徴	県の様子	資料活用	B1	54.8	79.6	51.5	31.9	17.1	62.5	2.0
6	1	4	都道府県の特徴	県の様子	知識・理解	A	51.7	80.6	48.5	23.1	6.7	73.9	18.1
7	2	1	県の特徴	県の様子	知識・理解	A	74.1	94.7	79.8	45.9	11.6	83.1	9.8
8	2	1	県の特徴	県の様子	知識・理解	A	65.7	89.9	68.0	37.0	9.8	80.1	15.3
9	2	1	県の特徴	県の様子	知識・理解	A	61.8	87.9	62.2	31.4	13.4	74.5	10.8
10	2	2	県の特徴	県の様子	知識・理解	A	53.4	80.0	51.9	25.5	8.7	71.3	8.7
11	2	3	県の特徴	県の様子	資料活用	B1	70.2	95.6	74.2	36.5	10.7	84.9	16.1
12	3	1	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	A	74.1	90.3	76.8	56.5	24.5	65.8	1.1
13	3	1	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	A	79.6	92.0	83.3	65.5	32.5	59.5	1.6
14	3	2	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	B1	75.9	94.0	79.5	53.9	24.0	70.0	2.0
15	3	3	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	思考・判断	B1	82.3	95.3	87.8	64.9	29.4	65.9	2.5
16	3	3	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	思考・判断	B1	82.0	97.2	87.6	61.7	25.7	71.5	2.9
17	4	1	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	83.4	96.7	88.6	68.4	24.7	72.0	3.4
18	4	1	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	88.9	98.6	94.7	78.5	31.0	67.6	3.6
19	4	2	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	A	62.6	86.9	65.4	33.2	5.6	81.3	6.3
20	4	3	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	B1	66.0	85.9	67.0	44.4	19.3	66.6	5.1
21	4	4	地図の読み取り	身近な地域	思考・判断	B2	32.6	56.9	25.6	14.6	6.3	50.6	6.3
22	5	1	販売の仕事	生産や販売の仕事	思考・判断	A	82.2	97.3	89.0	62.1	18.3	79.0	6.5
23	5	2	販売の仕事	生産や販売の仕事	資料活用	A	76.6	96.3	81.8	50.7	16.0	80.3	9.2
24	5	3	販売の仕事	生産や販売の仕事	資料活用	B1	41.6	71.1	35.4	15.9	6.6	64.5	12.6
25	5	4	販売の仕事	生産や販売の仕事	思考・判断	B2	59.3	84.9	61.0	28.0	7.1	77.8	20.7
26	6	1	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	A	44.8	74.2	38.7	19.6	7.6	66.6	4.1
27	6	1	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	A	44.1	75.1	38.8	15.3	4.6	70.5	5.1
28	6	1	グラフの読み取り	人々の生活	資料活用	A	35.9	56.8	33.5	15.3	5.4	51.4	6.6
29	6	2	資料活用	人々の生活	思考・判断	B2	59.8	85.9	58.8	31.1	14.8	71.1	6.2
30	6	3	資料活用	人々の生活	思考・判断	B2	71.3	93.0	74.9	45.1	11.4	81.6	12.4
31	6	4	資料活用	人々の生活	思考・判断	B2	29.4	57.6	22.0	6.8	0.6	57.0	28.5
32	7	1	資料活用	人々の生活	思考・判断	B1	32.7	66.3	23.4	5.9	0.9	65.4	19.6
33	7	2	資料活用	人々の生活	思考・判断	B2	69.0	93.0	71.6	40.1	13.1	79.9	17.7
34	7	2	資料活用	人々の生活	思考・判断	B2	38.6	70.4	32.5	9.8	0.6	69.8	23.6

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

知識・理解— 社会的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。

- (例) ■都道府県の位置及び宮崎県の特色について理解する。
■主な地図記号を理解する。

資料活用— 社会的事象を観察、調査したり、複数の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめることができるかどうかをみる問題。

- (例) ■地図やグラフを正しく読み取る。
■資料から考察し、文章で表現する。

思考・判断— 社会的事象の特色や相互の関連について考えることができるかどうかをみる問題。

- (例) ■資料から水を守ることについて考える。
■資料から見つけた根拠を基に自分の考えをもち、説明する。

■ 課題等

県の様子

- ◆ 都道府県の位置を答える問題（大問1小問2）は、「東京都」の設問別通過率が55.1%、「滋賀県」が43.0%で、47都道府県の名称と位置の理解に課題がある。
- ◆ 県内の特色ある地域について答える問題（大問2小問2）は、設問別通過率53.4%で、領域の目標値75.9%をかなり下回っている。

安全を守る工夫

- ◇ 領域別の平均到達度は78.8%で、他の領域に比べてかなり高い。

身近な地域

- ◇ 地図記号の問題（大問4小問1）は、設問別通過率がいずれも80%を上回り、基本的な地図記号の理解ができている。
- ◆ 方位磁針から方角を読み取る問題（大問4小問4）は、設問別通過率32.5%で、領域の目標値63.0%をかなり下回っている。

生産や販売の仕事

- ◆ 資料から販売の工夫について答える問題（大問5小問3）は、設問別通過率41.6%で、資料と関連付けて考えることに課題がある。

人々の生活

- ◆ 人口や水の使用量の増減等、グラフの変化を読み取ること（大問6小問1）に課題がある。
- ◆ 森林を大事にする理由を答える問題（大問6小問4）は、設問別通過率29.4%で、全設問の中で最も低い。資料から見つけた根拠に基づいて説明することに課題がある。
- ◆ 資料から自分の考えをもち、その考えに適した資料を選択した上で、根拠に基づいて自分の考えを述べることに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

県の様子

○ 47都道府県の名称と位置を調べる学習等を重視

- ・ 47都道府県の名称と位置を地図帳で確かめ、その名称を白地図に書き表すなどの活動をくり返し行うことが重要である。
- ・ 県内の特色ある地域をとらえさせる際に、自然環境、伝統や文化、産業などから見て自分たちの住んでいる市とは異なる地域を選択し、比較しながら、県全体の特色をとらえさせるなどの活動が大切である。

身近な地域

○ 地図（絵地図）の活用を重視

- ・ 屋上や小高い山など高いところから身近な地域の景観を展望、観察するなどの体験活動を取り入れ、身近な地域や市、町、村の様子を地図に表したり、地図から読み取ったりする学習を積極的に取り入れる必要がある。
- ・ 地図に表したり、地図を読み取ったりする際に必要となる方位や、主な地図記号の知識については、確実な定着を図ることが重要である。

生産や販売の仕事

○ 見学やインタビューなどで調査したことを適切にまとめる学習を重視

- ・ 地域の農家や工場、商店などを直接見学して、働く人の工夫や努力を具体的に調査した上で、その結果や具体的な資料を効果的に活用し、表現する力を育てる指導を行う必要がある。
- ・ 資料にある情報を適切に読み取り、資料と関連付けて答えを導き出す資料活用能力を育てる指導を一層充実させる必要がある。

人々の生活

○ 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理の学習では、具体的な資料の活用を重視

- ・ 飲料水、電気、ガスの使用量やその変化を、グラフを使って学習する際に、グラフから読み取ることができる全体的な傾向や増減に気付かせるとともに、およそ何倍に変化しているかなど、グラフを多面的に読み取らせる指導を行う必要がある。

○ 自分の考えの根拠を資料から読み取り、表現させる学習を重視

- ・ 単元計画において、価値判断の分かれる問題を設定し、自分の考えや立場を、根拠となる事実や資料を基に、図や文章で表現する学習場面を授業に設けることが大切である。
- ・ 中学年の発達の段階から考えて、価値判断の根拠となる事実や資料を自分で探すことは難しいため、教師がいくつかの資料を用意し、その資料に基づいて考えさせるような配慮が大切である。

3 小学校5年:算 数

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

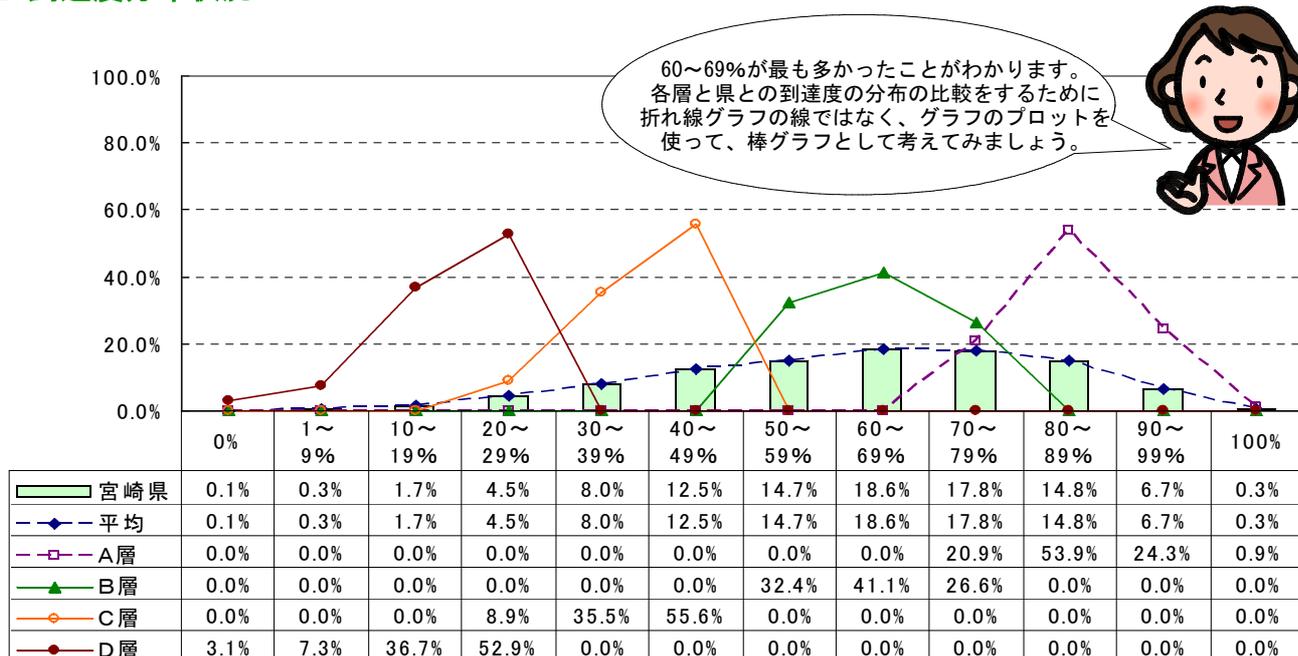
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	60.9	84.0	62.4	38.6	17.3
		技能	74.8	92.9	78.0	56.0	27.5
		知識・理解	62.2	86.0	64.7	37.6	15.5
		数学的な考え方	39.6	69.5	37.7	14.2	4.2
	領域	数と計算	74.1	89.2	76.8	58.8	32.1
		数量関係	52.0	80.3	52.6	25.5	7.7
		量と測定	54.9	79.9	54.9	32.5	15.9
	分類	図形	67.6	91.9	72.2	40.2	11.6
		基礎的・基本的な内容	75.5	91.4	78.4	59.4	31.2
達成率	観点	課題を解決する力	53.7	83.2	55.0	24.8	8.1
		活用する力	47.0	72.7	46.5	24.6	7.9
		教科全体	33.5	100.0	13.3	0.0	0.0
		技能	60.2	99.6	69.6	5.3	0.0
	領域	知識・理解	44.7	93.5	41.1	1.6	0.0
		数学的な考え方	22.7	71.4	6.9	0.0	0.0
		数と計算	60.9	96.7	68.3	14.6	0.0
	分類	数量関係	29.8	84.9	14.1	0.1	0.0
		量と測定	37.6	86.9	29.5	1.6	0.0
達成率	領域	図形	42.2	78.6	41.2	8.7	0.4
		基礎的・基本的な内容	49.5	94.5	49.8	4.1	0.0
	分類	課題を解決する力	33.9	91.7	19.3	0.0	0.0
		活用する力	27.0	71.8	15.7	0.7	0.0
		教科全体	70.8				

目標値	観点	教科全体	70.8
		技能	75.8
		知識・理解	74.4
		数学的な考え方	60.6
	領域	数と計算	77.8
		数量関係	65.0
		量と測定	70.0
	分類	図形	73.3
		基礎的・基本的な内容	79.2
	課題を解決する力	67.7	
	活用する力	61.4	



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



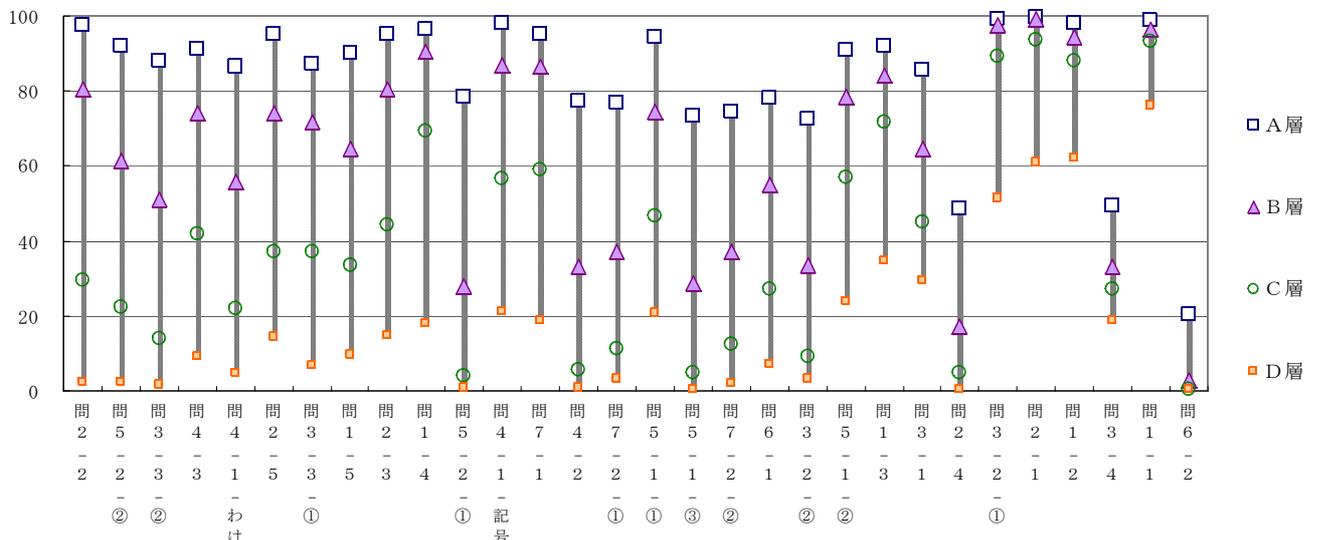
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数值は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	小数の加法の計算	数と計算	技能	A	95.3	98.7	96.4	93.2	75.7	23.0	0.1
2	1	2	小数の減法の計算	数と計算	技能	A	92.5	97.9	94.6	88.0	62.1	35.8	0.2
3	1	3	2位数×2位数の計算	数と計算	技能	A	81.1	92.1	83.9	71.6	35.0	57.1	0.5
4	1	4	3位数÷2位数の計算	数と計算	技能	A	84.0	96.6	90.4	69.2	18.2	78.4	2.8
5	1	5	四則の混合した計算	数量関係	技能	A	62.0	89.9	64.7	33.4	9.6	80.3	1.6
6	2	1	分数の意味	数と計算	知識・理解	A	96.2	99.8	99.1	93.6	60.7	39.1	0.7
7	2	2	余りのある除法	数量関係	技能	B1	70.0	97.6	80.3	29.6	2.5	95.1	11.2
8	2	3	帯分数の意味	数と計算	知識・理解	A	73.3	95.2	80.5	44.1	14.8	80.4	2.8
9	2	4	十進位取り記数法の意味	数と計算	知識・理解	A	22.3	48.8	17.2	4.8	0.4	48.4	4.9
10	2	5	四捨五入による概数の表し方	数と計算	知識・理解	B1	68.8	95.2	74.1	37.2	14.6	80.6	3.6
11	3	1	分度器を使っての角の大きさの測定	量と測定	技能	B1	64.3	85.8	64.4	45.1	29.3	56.5	1.0
12	3	2	長方形の面積	量と測定	技能	A	94.1	99.3	97.8	89.3	51.2	48.1	0.7
13	3	2	長方形を組み合わせた図形の面積	量と測定	数学的な考え方	B1	37.3	72.5	33.4	9.1	3.1	69.4	4.6
14	3	3	正方形の一辺の長さ	量と測定	知識・理解	B1	65.2	87.4	71.7	37.2	6.6	80.8	7.1
15	3	3	正方形を組み合わせた図形の面積	量と測定	数学的な考え方	B1	50.6	88.1	51.1	13.9	1.4	86.7	6.7
16	3	4	凹字型の図形の面積	量と測定	数学的な考え方	B1	35.5	49.4	33.0	27.2	18.6	30.8	7.0
17	4	1	円の直径	図形	知識・理解	A	80.0	98.0	86.9	56.6	20.9	77.1	5.6
18	4	1	円の直径	図形	知識・理解	A	54.1	86.4	55.6	22.1	4.7	81.7	11.5
19	4	2	円の直径と半径との関係	量と測定	知識・理解	B1	37.5	77.2	33.1	5.5	0.8	76.4	7.7
20	4	3	二等辺三角形の作図	図形	技能	B1	68.6	91.3	74.3	41.7	9.2	82.1	9.4
21	5	1	資料の分類整理	数量関係	技能	A	71.1	94.3	74.5	46.6	20.7	73.6	1.3
22	5	1	資料の分類整理	数量関係	技能	B2	74.5	90.8	78.5	57.1	24.4	66.4	1.6
23	5	1	資料の分類整理	数量関係	数学的な考え方	B2	34.2	73.3	28.7	4.7	0.2	73.1	3.3
24	5	2	数量の関係式	数量関係	技能	B1	35.2	78.5	28.0	4.0	0.8	77.7	18.4
25	5	2	数量関係の発展的な考え方	数量関係	数学的な考え方	B1	58.2	92.1	61.3	22.2	2.3	89.8	14.5
26	6	1	実生活の場面における活用	数と計算	数学的な考え方	B2	52.9	78.3	55.1	27.0	7.2	71.1	2.7
27	6	2	実生活の場面における活用	数量関係	数学的な考え方	B2	6.9	20.3	2.8	0.2	0.2	20.1	10.7
28	7	1	実生活の場面における活用	数量関係	技能	B2	79.4	95.1	86.4	59.1	18.6	76.5	6.0
29	7	2	実生活の場面における活用	数量関係	数学的な考え方	B2	40.6	76.8	37.0	11.3	3.1	73.7	8.2
30	7	2	実生活の場面における活用	数量関係	数学的な考え方	B2	40.1	74.5	36.9	12.5	1.8	72.7	12.6

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 技能** — 事象を数理的に処理し、言葉や式、グラフ、図形、数学的な用語・記号などを用いて表現することができるかどうかをみる問題。
(例) ■ 小数の加法・減法の計算をする。
■ 二等辺三角形の作図をする。
- 知識・理解** — 数量や図形などに関する基礎的・基本的な内容が定着しているかどうかをみる問題。
(例) ■ 十進位取り記数法の意味を理解する。
■ 帯分数の意味を理解する。
- 数学的な考え方** — 事象を数学的にとらえ、見通しをもって筋道を立てて考え、問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■ 長方形の面積を利用して、複合図形の面積を求める。
■ 5種類の方法費と必要な分量から、一人分の方法費を考える。

■ 課題等

数と計算

- ◇ 小数の加法の計算(大問1小問1)の設問別通過率は95.3%、小数の減法の計算(大問1小問2)は92.5%、分数の意味の理解(大問2小問1)は96.2%であり、領域の目標値77.8%をかなり上回っている。
- ◆ 十進位取り記数法の意味の理解について課題がある。(大問2小問4)
- ◆ 実生活の場面において情報を整理し、それを基に判断することに課題がある。(大問6小問1)

数量関係

- ◇ 実生活の場面における活用(大問7小問1)の設問別通過率は79.4%であり、領域の目標値65.0%を上回っている。
- ◆ 2つのグラフから情報を読み取り、判断することに課題がある。(大問5小問1③)
- ◆ 数量の関係を図や表から読み取り、式に表すことに課題がある。(大問5小問2①) 中学校数学でも同様の傾向がみられる。
- ◆ 実生活の場面において、与えられた情報から判断し、問題を解決することに課題がある。(大問6小問2)

量と測定

- ◇ 長方形の面積(大問3小問2①)の設問別通過率は94.1%であり、領域の目標値70.0%をかなり上回っている。
- ◆ 長方形を組み合わせた図形の面積を求めることに課題がある。(大問3小問2②)
- ◆ 凹字型の図形の面積を求めることに課題がある。(大問3小問4)
- ◆ 内接する2つの円の関係から、直径を求めることに課題がある。(大問4小問2)

図形

- ◆ 円の中にひいた直線の中で、一番長い直線を選んだわけをかくことに課題がある。(大問4小問2)

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

数と計算

- 日常生活の場面と結びつけて情報を整理し、数の大きさをとらえさせる等の学習を重視
 - ・ 他教科や生活の中で見られるような、大きな数量を表す様々な単位を意図的に取り上げ、大きな数を億、兆などの単位をつけてよむことが大切である。また、学習を終えた後でも、大きな数量を表す機会を設けて繰り返し指導することが必要である。
 - ・ 日常生活の買い物など、計算を実際の生活の場面と結び付け、生活や学習に活用できるようにすることが大切である。
 - ・ 数を概数で表す際には、四捨五入して表された概数について、そのような概数になるもとの数の中で一番大きな数や小さな数を考えたり、概数に表した基の数の数の範囲を数直線上に表したりする活動を取り入れることが必要である。

数量関係

- 数量関係について言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて考え、説明させる学習の充実
 - ・ グラフからある数値を読み取るだけでなく、ある区間や部分に着目してグラフを読み取る活動を取り入れ、特徴や傾向を発表し合う場を設定することが必要である。
 - ・ 身近な事象を授業で取り上げ、その中から規則性を見いだす経験をしたり、その規則性を用いて課題を解決したりする場を設定することが必要である。また、数量の関係を表やグラフを用いて考えたり、話し合ったりする活動を取り入れ、特徴や傾向を言葉や式、図、表、グラフなどを用いて説明できるようにすることが必要である。

量と測定

- 単位の大きさや面積の求め方を実感を伴って理解させる学習の充実
 - ・ はがきや折り紙、机、新聞紙、教室など、身の回りにある様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする活動を積極的に取り入れ、体験的な活動を通して、基本的な量の大きさについての感覚を豊かにすることが大切である。
 - ・ 正方形や長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、既習事項を基に考え、言葉や数、式、図を用いて、筋道を立てて説明したり、他の考え方を聞いたりする態度を育成することが重要である。

図形

- 具体物に着目して考え、図形の性質などについて説明させる学習の充実
 - ・ 身の回りにある具体物などを、形や大きさ、位置関係などに着目して観察したり、実際に紙や模型を用いて考えたりする活動を取り入れることが必要である。
 - ・ 正三角形や円を、定規やコンパスを用いて作図したり、立方体や直方体を見取図や展開図で表したりする活動を通して、図形の性質を見だし、説明する学習を行うことが必要である。また、既習の知識・技能を用いて考える力や表現する力を育成することが重要である。

4 小学校5年:理 科

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

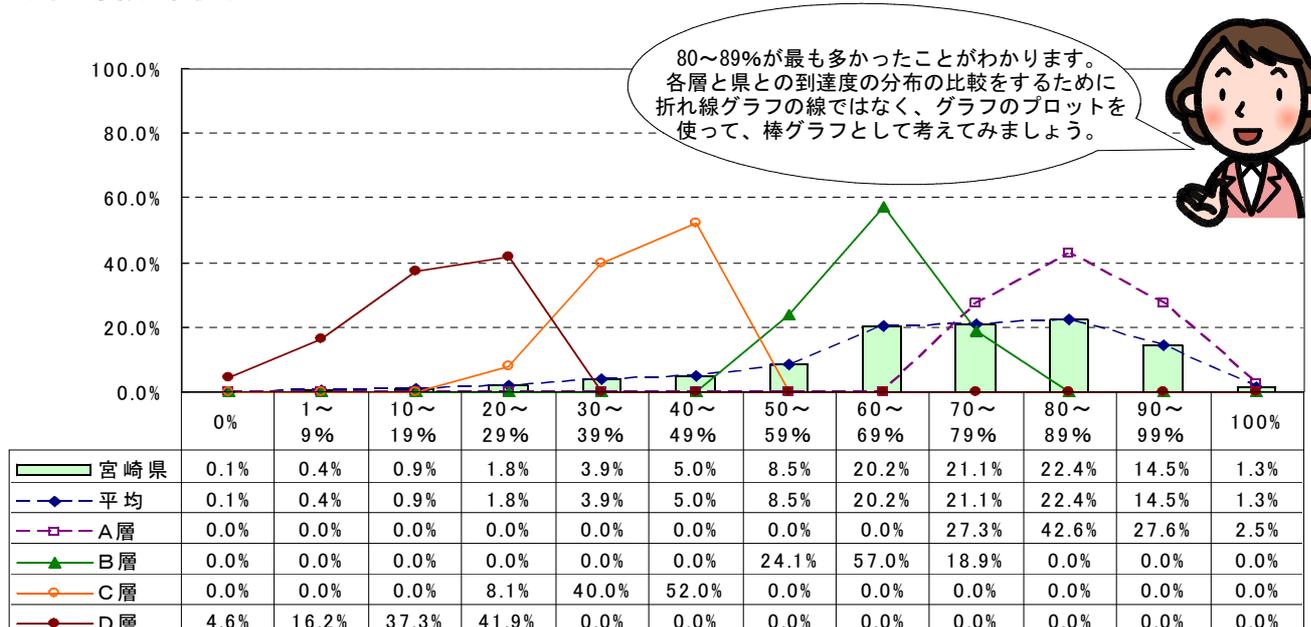
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	72.0	85.5	64.5	40.2	16.7
		知識・理解	79.0	91.4	72.9	48.6	21.0
		観察・実験の技能	80.2	93.3	77.7	37.3	5.0
		思考・表現	61.0	76.0	50.8	29.0	12.4
	領域	生命・地球(生命)	75.2	87.9	67.8	46.9	19.4
		生命・地球(地球)	81.2	93.5	78.0	43.7	12.3
		物質・エネルギー(粒子)	67.6	79.7	59.6	42.7	23.0
		物質・エネルギー(エネルギー)	67.2	83.3	57.1	30.8	12.1
	分類	基礎的・基本的な内容	80.4	92.3	75.6	49.0	18.6
		課題を解決する力	69.8	84.9	60.7	34.6	14.0
		活用する力	50.4	64.7	38.3	25.7	17.1
		達成率	教科全体	59.2	100.0	18.9	0.0
観点	知識・理解	66.9	98.3	43.1	0.1	0.0	
	観察・実験の技能	68.8	87.0	60.5	16.7	1.5	
	思考・表現	58.9	93.0	28.2	0.7	0.0	
	生命・地球(生命)	51.9	78.5	28.2	7.5	0.8	
領域	生命・地球(地球)	68.2	92.2	54.2	5.5	0.4	
	物質・エネルギー(粒子)	65.5	91.9	46.2	9.5	0.8	
	物質・エネルギー(エネルギー)	59.3	92.7	29.9	1.0	0.0	
	基礎的・基本的な内容	66.4	97.1	43.5	0.2	0.0	
分類	課題を解決する力	67.4	97.3	45.8	1.1	0.0	
	活用する力	48.4	74.3	24.8	5.9	0.0	

目標値	達成率
教科全体	70.0
観点	
知識・理解	75.6
観察・実験の技能	82.5
思考・表現	60.4
領域	
生命・地球(生命)	79.3
生命・地球(地球)	75.7
物質・エネルギー(粒子)	65.0
物質・エネルギー(エネルギー)	64.0
分類	
基礎的・基本的な内容	79.1
課題を解決する力	63.3
活用する力	57.0



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

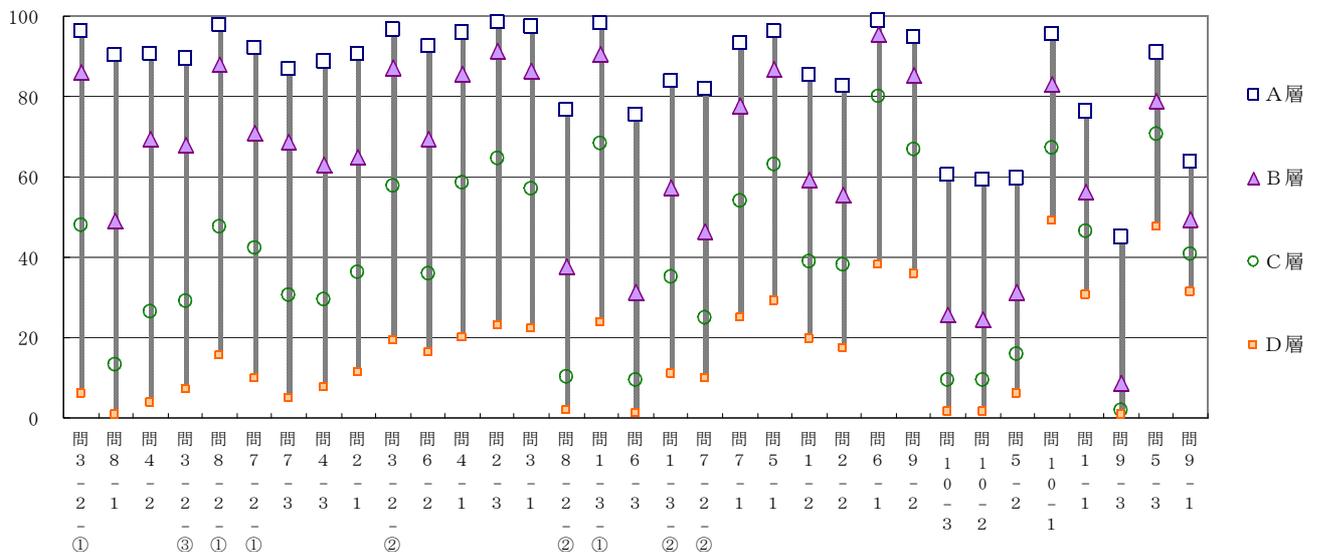
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	植物のつくりと育ち(ホウセンカの種)	生命・地球(生命)	知識・理解	A	65.2	76.3	56.2	46.6	30.2	46.1	0.2
2	1	2	植物の育ちの順序	生命・地球(生命)	知識・理解	B1	70.0	85.4	59.1	39.0	19.5	65.9	0.9
3	1	3	植物のからだのつくり	生命・地球(生命)	知識・理解	A	90.9	98.3	90.5	68.3	23.7	74.6	1.8
4	1	3	植物の育ちの順序	生命・地球(生命)	知識・理解	A	68.0	83.9	57.4	35.2	10.7	73.2	3.2
5	2	1	生き物の1年間	生命・地球(生命)	知識・理解	A	74.3	90.4	65.0	36.5	11.5	78.9	0.5
6	2	2	生き物の1年間	生命・地球(生命)	知識・理解	A	67.2	82.6	55.5	38.1	17.2	65.4	2.1
7	2	3	季節と生き物のくらしの関係	生命・地球(生命)	知識・理解	A	90.9	98.6	91.2	64.5	22.9	75.7	1.6
8	3	1	かげの動きと太陽	生命・地球(地球)	知識・理解	A	87.7	97.2	86.6	56.9	22.1	75.1	1.6
9	3	2	日なたと日かげの地面の温度	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	85.7	96.1	86.0	48.1	6.1	90.0	2.3
10	3	2	日なたと日かげの地面の温度	生命・地球(地球)	思考・表現	A	87.6	96.6	87.3	57.8	19.1	77.5	3.0
11	3	2	日なたと日かげの地面の温度	生命・地球(地球)	思考・表現	B1	74.0	89.6	67.8	29.0	7.6	82.0	7.4
12	4	1	月の動き	生命・地球(地球)	知識・理解	A	86.9	96.0	85.7	58.3	19.8	76.2	3.8
13	4	2	月の動き	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	74.6	90.4	69.3	26.4	3.8	86.6	5.0
14	4	3	月の動き	生命・地球(地球)	思考・表現	B1	71.9	88.5	63.2	29.4	7.6	80.9	6.0
15	5	1	ものの体積と重さ	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	A	88.0	96.2	86.7	63.1	29.0	67.2	0.8
16	5	2	ものの体積と重さ	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	B1	44.1	59.7	31.4	15.7	6.1	53.6	1.0
17	5	3	ものの体積と重さ	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	B1	83.6	90.8	78.8	70.4	48.1	42.7	0.9
18	6	1	とじこめた空気のある場所	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	94.4	98.9	95.5	80.1	38.2	60.7	0.9
19	6	2	とじこめた空気の性質	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	76.8	92.2	69.3	36.0	16.4	75.8	0.9
20	6	3	空気と水の性質のちがい	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	B1	51.6	75.5	31.2	9.5	1.1	74.4	13.3
21	7	1	乾電池のつなぎ方	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	A	82.3	93.3	77.6	53.9	25.2	68.1	3.5
22	7	2	乾電池のつなぎ方とモーターの回り方の関係	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	B1	77.8	92.1	71.0	42.0	9.9	82.2	2.5
23	7	2	乾電池のつなぎ方とモーターの回り方の関係	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	B1	62.2	82.0	46.4	25.0	9.9	72.1	2.8
24	7	3	モーターが回る回路	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B1	72.8	86.7	68.5	30.4	5.0	81.7	7.3
25	8	1	ゴムの力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	A	66.0	90.1	48.9	13.3	0.8	89.3	7.7
26	8	2	ゴムの力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	B1	87.4	97.7	87.8	47.7	15.3	82.4	5.4
27	8	2	ゴムの力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B1	54.5	76.5	37.7	10.1	1.9	74.6	6.2
28	9	1	水のすがた	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	B2	55.8	63.7	49.6	41.0	32.1	31.6	1.5
29	9	2	水のすがた	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	B1	87.3	94.8	85.3	67.0	35.5	59.3	1.6
30	9	3	氷になるときの体積の変化	物質・エネルギー(粒子)	思考・表現	B2	26.8	44.8	8.8	1.8	0.8	44.0	13.0
31	10	1	風の力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	B2	87.1	95.3	83.0	67.0	49.6	45.7	2.0
32	10	2	風の力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B2	40.7	59.3	24.4	9.4	1.5	57.8	7.2
33	10	3	風の力のはたらき	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B2	41.8	60.5	25.6	9.4	1.5	59.0	11.9

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 知識・理解** — 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■かげの位置は太陽の動きによって変わること理解する。
■ゴムの力は、物を動かすことができることを理解する。
- 観察・実験の技能** — 自然の事物・現象についての課題を追究するための観察・実験に必要な技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■地面の温度の観察結果を読み取ることができる。
■月の観察の結果を読み取ることができる。
- 思考・表現** — 自然の事物・現象の共通性や相互のかかわり、性質や変化、規則性についての見方や考え方が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■日なたと日かげで地面の温度が違う理由を説明する。
■同じ体積の物の重さを調べた実験の結果を考察する。

■ 課題等

生命・地球（生命）

- ◇ 動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを選択する問題（大問2小問3）は、設問別通過率90.9%で、領域の目標値79.3%をかなり上回っている。
- ◆ ホウセンカの種を選択する問題（大問1小問1）は、設問別通過率65.2%で領域の目標値をかなり下回っている。なお、昨年度のヘチマの種を選択する問題の設問別通過率は、59.9%であった。

生命・地球（地球）

- ◇ 地面の温度の観察結果からわかることを読み取る問題（大問3小問2②）は、設問別通過率87.7%で、領域の目標値75.7%をかなり上回っている。
- ◆ 飲み物の容器の外側に水滴がつくことから、容器中の飲み物の温度を比較する問題（大問9小問1）は、設問別通過率55.7%で、領域の目標値をかなり下回っている。

物質・エネルギー（粒子）

- ◇ 物の重さを調べた実験結果からわかることを読み取る問題（大問5小問1）は、設問別通過率88.1%で、領域の目標値65.0%をかなり上回っている。
- ◆ 同じ体積の物の重さを調べた実験結果を説明する問題（大問5小問2）は、設問別通過率44.2%で、観点（思考・表現）の目標値60.4%をかなり下回っている。
- ◆ 水が氷になると体積が増えることから、飲み物の容器をそのまま凍らせてはいけない理由を説明する問題（大問9小問3）は、設問別通過率26.8%で、分類（B2）の目標値57.0%をかなり下回っている。また、無解答率も13.0%と高い。既存の知識と日常生活での経験を関連付けて考えることに課題がある。

物質・エネルギー（エネルギー）

- ◇ ゴムを引く長さとはたらく力の大きさの関係をj選択する問題（大問8小問2①）は、設問別通過率87.4%で、領域の目標値64.0%をかなり上回っている。
- ◆ 実験結果から、ゴムの伸びと車の走る距離を説明する問題（大問8小問2②）は、設問別通過率54.5%で、観点（思考・表現）の目標値60.4%を下回っている。
- ◆ 風の力とヨットの帆の操作を結び付けて考える問題（大問10小問3）は、設問別通過率41.8%で、分類（B2）の目標値57.0%を下回っている。既習事項と与えられた情報を関連付けて考えることに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

生命・地球（生命）

○ 同一の対象を定期的に観察させる活動の重視

- ・ 植物の成長については、同地点で同一の対象を定期的に観察させ、動物については、身近に見られる動物が季節によって活動の様子が違うことに気付かせることが大切である。
- ・ 動物の活動や植物の成長について、観察したことを図や表に整理することを通して、動物の活動や植物の成長を季節と関係付ける力を身に付けさせる必要がある。

生命・地球（地球）

○ 実際に観察する機会をもち、定点観察の方法を身に付けさせる活動の重視

- ・ 天体の美しさを感じとる体験を充実させるためには、実際に月を観察する機会を多くもつようにし、月や星に対する豊かな心情を育てることが大切である。
- ・ 月の観察を通して、方位磁針による方位の確認や決まった時間の間隔で観察するなどの定点観察の方法を身に付けさせることが重要である。また、観察結果を読みとり、月の位置が時間の経過に伴って変わることをとらえさせる必要がある。夜間の観察となるので、映像や模型、デジタルコンテンツなどを活用して月の動きについて考えさせる活動も取り入れたい。

○ 身の回りで見られる現象を考察させる活動の重視

- ・ 身の回りで見られる結露の現象を取り上げ、空気中には、蒸発した水が水蒸気として存在していることを考察させることが必要である。

エネルギー（粒子）

○ 実験の結果を整理し考察し表現させる活動の重視

- ・ 実験の結果を整理し考察させ、予想と関係付けながら考察したことを自分の言葉で表現させることが大切である。

○ 日常生活と関連付けて考察し表現させる活動の重視

- ・ 水が氷になると体積が増えることを実験によって導いた後、日常生活において液体を凍らせるときには容器の破損に留意しなければならないこと等を紹介し、学習内容と日常生活とを関連させて考えさせる活動を取り入れることが大切である。

物質・エネルギー（エネルギー）

○ 自然の事物・現象を科学的な言葉を使用して説明させる活動の重視

- ・ 乾電池の数を1個から2個に増やしてモーターを回しても、乾電池を1個つないだときと変わらない場合があることを、電流の強さと関係付けながら「並列つなぎ」という言葉を使用して考察させ、適切に説明させることが大切である。

○ 実験の結果を整理し考察し表現させる活動の重視

- ・ ゴムの伸びと車の走る距離の関係を図や表に整理することを通して、ゴムの働きについてとらえさせ、実験結果から考察したことを自分の言葉で表現させるようにすることが大切である。

○ ものづくりなどの科学的な体験や実社会・実生活と関連させる活動の重視

- ・ 風で動くおもちゃをつくるものづくりの活動を通して、風力とおもちゃの動く距離とを関係付けて考えさせる活動を重視するとともに、生活の中で風力を利用しているものに触れ、風の働きについて実社会・実生活と関連付けて考えさせることが必要である。

Ⅱ-2 中学校 各教科の分析

1 中学校2年:国 語

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

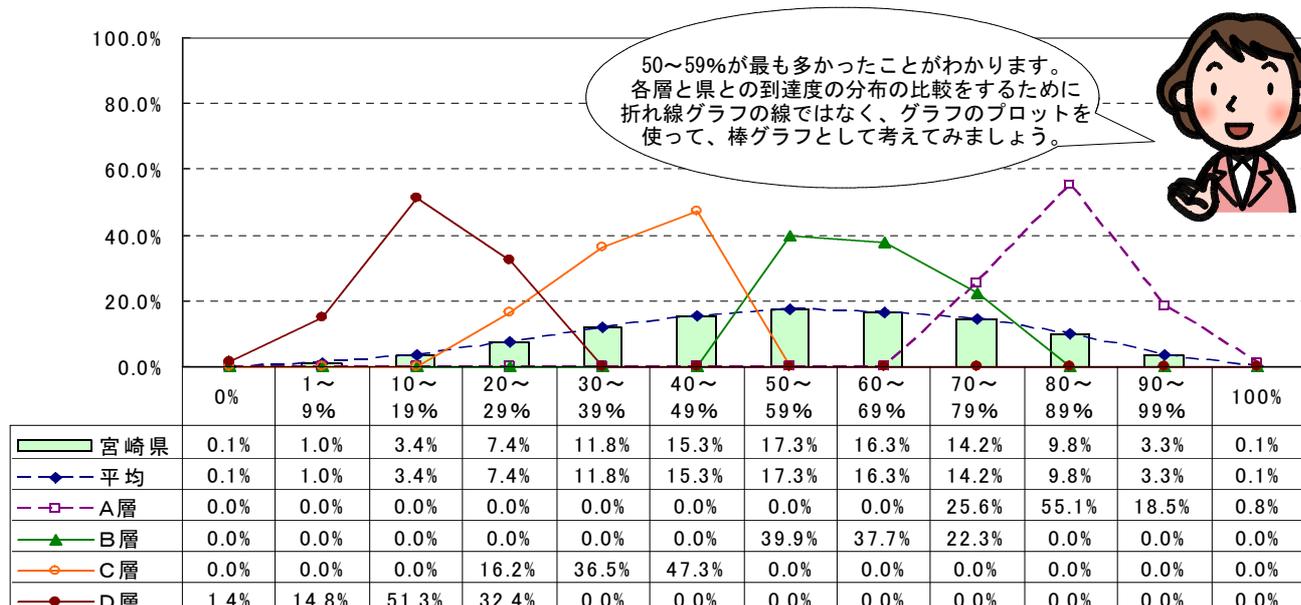
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等						
			A層	B層	C層	D層			
平均到達度	観点	教科全体	55.6	83.7	62.4	38.9	17.2		
		読む能力	48.6	80.1	54.5	30.6	13.8		
		書く能力	53.3	84.1	61.9	34.4	7.5		
		言語についての知識・理解・技能	65.9	88.8	73.7	51.5	23.6		
	領域	読むこと	49.5	81.2	55.7	31.1	13.6		
		書くこと	53.3	84.1	61.9	34.4	7.5		
		言語事項	67.6	88.3	75.3	54.7	25.9		
	分類	基礎的・基本的な内容	65.8	91.2	74.1	49.7	23.1		
		課題を解決する力	43.5	75.8	49.1	25.3	9.3		
		活用する力	70.1	90.7	77.3	57.6	28.9		
		達成率	観点	教科全体	32.7	100.0	34.5	0.0	0.0
				読む能力	22.2	90.9	13.9	0.0	0.0
書く能力	35.5			71.6	41.2	15.1	0.8		
言語についての知識・理解・技能	60.0			99.4	80.4	23.4	0.0		
領域	読むこと		25.9	98.2	19.5	0.0	0.0		
	書くこと		35.5	71.6	41.2	15.1	0.8		
	言語事項		60.3	98.4	78.4	27.5	0.0		
分類	基礎的・基本的な内容		58.5	99.8	80.3	18.7	0.0		
	課題を解決する力		21.3	89.2	12.7	0.0	0.0		
	活用する力		63.8	95.5	76.8	40.8	6.2		

目標値	観点	教科全体	65.3
		読む能力	67.6
		書く能力	52.5
		言語についての知識・理解・技能	64.2
	領域	読むこと	67.4
		書くこと	52.5
		言語事項	64.0
	分類	基礎的・基本的な内容	66.7
		課題を解決する力	64.0
		活用する力	66.3



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 調査問題の趣旨・内容

読む能力	— 「読むこと」の領域において、基礎的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。 (例) ■文章の内容を的確に読み取り、書いてまとめる。 ■文章の構成や展開、あらすじや要旨をとらえる。 ■資料から必要な情報を読み取り、表現に生かす。
書く能力	— 「書くこと」の領域において、基礎的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。 (例) ■資料の情報を生かし、伝えたい事柄を条件に従って書く。
言語についての知識・理解・技能	— 言語事項に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■漢字を正しく読み、正しく書く。 ■国語辞典を正しく使い、言葉を調べる。 ■歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。

■ 課題等

読むこと

- ◇ 登場人物の心情について説明した文の空欄に、本文中の言葉を用いて適切な内容を補充する問題（大問1小問5のii）や、文章の要旨についてまとめたノートの空欄に、本文中の言葉を抜き出して補充する問題（大問2小問5のi）、資料を読み取り適切な見出しを選択肢から選ぶ問題（大問3小問1のA・B）は、それぞれの設問別通過率が70.3%、73.6%、79.1%、94.6%で、領域の目標値67.4%を上回っている。
- ◆ 文章の展開に即して内容をとらえ、書いてまとめる問題（大問1小問3、大問2小問2）は、それぞれの設問別通過率が26.2%、22.1%であり、領域の目標値をかなり下回っている。また、文章の要旨をまとめたノートの空欄に、キー・ワードを用いて適切な内容を補充する問題（大問2小問5のiii・iv）の設問別通過率は41.1%、37.3%であり、領域の目標値をかなり下回っている。内容を的確に読み取り、記述してまとめる力に課題がある。小学校でも同様の傾向が見られる。
- ◆ 文章中で時間の経過を表す描写を指摘する問題（大問1小問2）、登場人物の言動の背景にある心情と理由をとらえ、選択肢から指摘する問題（大問1小問4）、登場人物の心情について説明した文の空欄に、適切な内容を補充する問題（大問1小問5のi）は、それぞれの設定通過率が39.5%、31.7%、26.5%であり、領域の目標値をかなり下回っている。文学的文章において、場面における描写の効果、登場人物の言動の意味や心情の変化をとらえる力に課題がある。小学校でも同様の傾向が見られる。
- ◆ 文章の展開に即して適切な語句を選択肢から選び、空欄に補充する問題（大問2小問3）、文章の構成と展開を指摘する問題（大問2小問4）、文章全体のまとめとなる一文を指摘する問題（大問2小問6）は、それぞれの設問別通過率が43.9%、46.3%、32.7%であり、領域の目標値をかなり下回っている。説明的文章において、文章の構成や展開、要旨をとらえる力に課題がある。

書くこと

- ◆ 資料の情報を基に、伝えるべき内容を端的にまとめて書く問題（大問3小問2）は、設問別通過率が47.0%であり、領域の目標値52.5%を下回っている。資料の情報を基にして自分の考えを記述する力に課題がある。小学校でも同様の傾向が見られる。

言語事項

- ◇ 書写（大問4小問5）について、行書で書かれた漢字を楷書で書くときの総画数を指摘する問題の設問別通過率は74.2%で、領域の目標値64.0%をかなり上回っている。
- ◆ 漢字（大問4小問1・2）について、「眺望」の読み、「成績」の書き取りの設問別通過率が、それぞれ57.5%、50.4%であり、領域の目標値を下回っている。日常的に使い慣れていない漢字の読みや、同音異字の漢字の書き取りに課題がある。
- ◆ 国語辞典の使い方（大問4小問3）について、五十音順で正しく言葉を調べる問題の設問別通過率が37.3%であり、領域の目標値をかなり下回っている。辞典を使うために必要となる知識や技能に課題がある。小学校でも同様の傾向が見られる。
- ◆ 古典（大問4小問4）の仮名遣いについて、歴史的仮名遣い（「ゆゑ」「いきほひ」）を、現代仮名遣いに直して書く問題の設問別通過率が55.4%、58.4%であり、領域の目標値を下回っている。古典の基礎的な知識や技能に課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

読むこと

- 文章の内容や表現の仕方をとらえ、自分の考えをまとめる言語活動の充実
 - ・ 文章の表現を根拠にしながらか、読み取った内容について話し合ったり、書いてまとめたりする場面を設定することが重要である。
 - ・ 「何が書かれているか」だけでなく、「どのように書かれているか」にも着目させ、文章の構成や展開、その効果について考えさせる場面を設定する必要がある。

書くこと

- 文章や資料を基に伝えたい内容をまとめ、条件に従って書く言語活動の充実
 - ・ 伝えるべき内容が正しく伝わるよう、相手や目的に応じて内容を整理したり、表現を工夫したりする場面を設定することが重要である。

言語事項

- 基礎的・基本的な言語事項の定着を図り、自分の言語生活に生かす指導の重視
 - ・ 漢字については、正確に読み書きができるだけでなく、実際に読んだり書いたりする機会を多くして、文脈に即して使えるようにする指導の工夫が大切である。
 - ・ 国語辞典の使い方については、授業の中で実際に言葉を調べさせる場面を設定し、知識として理解するだけでなく、日常生活で使えるようにする指導の工夫が重要である。
 - ・ 古典については、音読・朗読・暗唱することにより、古典特有のリズムに親しませながら、文語のきまりを習得させる指導の工夫が必要である。

2 中学校2年:社 会

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

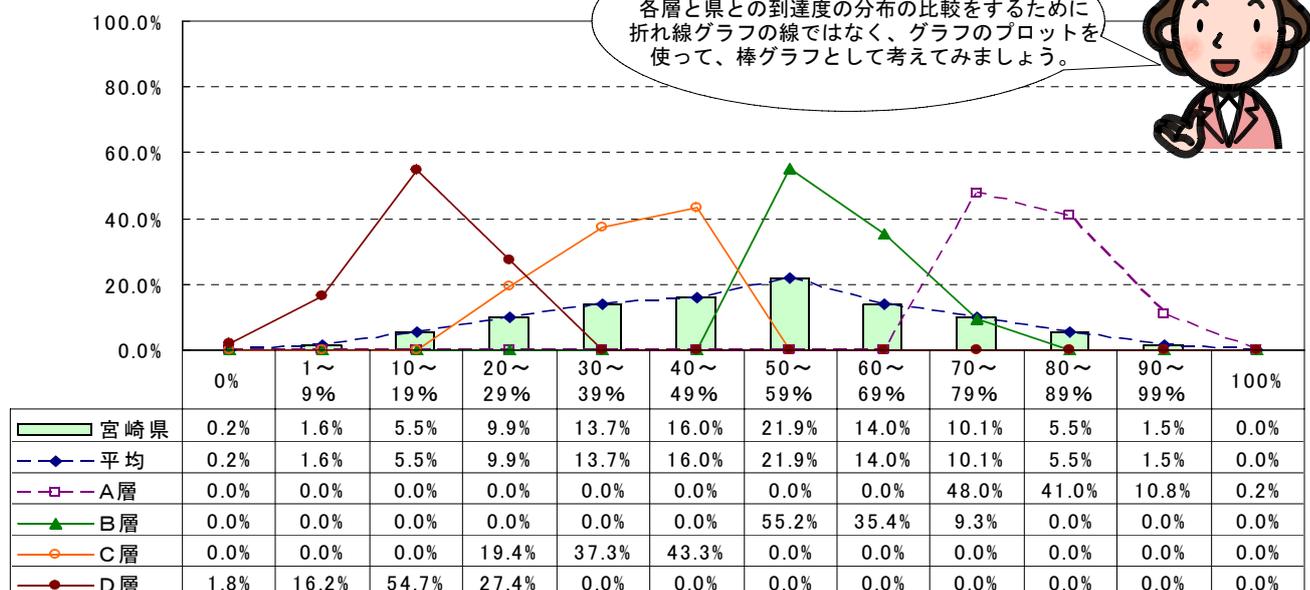
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	50.0	81.2	60.1	37.0	16.1
		知識・理解	54.7	85.2	64.6	41.9	22.3
		資料活用	46.7	77.2	55.6	34.9	14.1
		思考・判断	47.5	80.0	58.8	33.5	10.8
	領域	世界と日本の地域構成	47.0	78.2	54.8	35.1	17.8
		地域の規模に応じた調査	49.6	83.9	62.5	34.6	8.5
		古代までの日本	55.5	86.5	67.9	41.1	18.1
		中世の日本	50.6	74.0	55.9	43.3	25.8
		近世の日本	39.8	76.9	50.8	24.2	4.7
	分類	基礎的・基本的な内容	56.3	86.5	66.7	43.6	21.7
		課題を解決する力	43.4	73.0	51.1	32.2	14.6
		活用する力	47.6	83.3	60.8	31.6	7.0
達成率	観点	教科全体	26.0	100.0	31.7	0.0	0.0
		知識・理解	25.9	93.6	32.9	0.8	0.0
		資料活用	27.2	91.5	35.1	2.8	0.0
		思考・判断	34.8	96.6	50.8	4.8	0.0
	領域	世界と日本の地域構成	23.4	84.3	27.3	3.3	0.0
		地域の規模に応じた調査	34.3	92.4	48.6	7.2	0.0
		古代までの日本	44.5	98.9	68.3	11.4	0.0
		中世の日本	27.9	72.4	32.6	13.4	3.3
		近世の日本	21.8	59.9	27.7	7.3	0.6
	分類	基礎的・基本的な内容	32.7	98.7	47.7	1.6	0.0
		課題を解決する力	23.2	90.1	26.8	1.2	0.0
		活用する力	31.8	90.7	44.9	4.9	0.0

目標値	観点	教科全体	64.5
		知識・理解	67.1
		資料活用	66.7
		思考・判断	60.0
	領域	世界と日本の地域構成	67.0
		地域の規模に応じた調査	60.7
		古代までの日本	65.0
		中世の日本	63.8
		近世の日本	65.0
	分類	基礎的・基本的な内容	68.6
		課題を解決する力	60.5
		活用する力	62.9



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



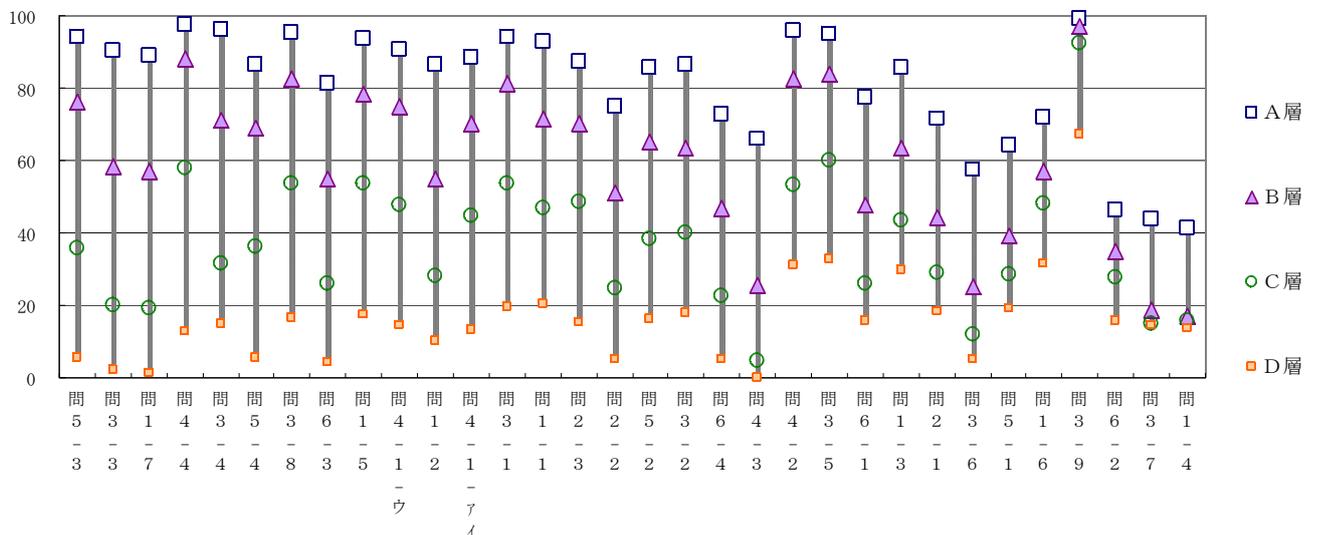
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	海洋の分布	世界と日本の地域構成	知識・理解	A	60.2	92.9	71.7	46.8	20.6	72.3	3.8
2	1	2	海洋の分布	世界と日本の地域構成	資料活用	B1	44.9	86.4	55.1	28.3	10.4	76.0	0.4
3	1	3	赤道の位置	世界と日本の地域構成	知識・理解	A	55.7	85.4	63.5	43.6	29.7	55.7	0.3
4	1	4	大陸の分布	世界と日本の地域構成	資料活用	B1	19.5	41.2	17.2	15.8	13.5	27.7	0.6
5	1	5	地図上の方位	世界と日本の地域構成	資料活用	A	65.1	93.7	78.2	53.8	17.3	76.4	5.1
6	1	6	日本の領域	世界と日本の地域構成	知識・理解	A	53.1	72.0	57.0	48.0	31.6	40.4	1.1
7	1	7	日本の標準時を決める経線	世界と日本の地域構成	知識・理解	A	41.7	89.0	57.0	19.2	1.4	87.6	18.1
8	2	1	北海道の道庁所在地	世界と日本の地域構成	知識・理解	A	39.7	71.4	44.3	29.1	18.2	53.2	3.7
9	2	2	地形図の読み取り方	地域の規模に応じた調査	資料活用	B1	39.9	74.8	51.2	24.6	5.0	69.8	20.8
10	2	3	グラフの読み取り方	地域の規模に応じた調査	思考・判断	B1	59.0	87.2	70.3	48.5	15.5	71.7	19.2
11	3	1	縄文文化と弥生文化	古代までの日本	資料活用	A	66.5	94.2	81.1	53.7	19.6	74.6	4.9
12	3	2	国々の誕生	古代までの日本	資料活用	B1	53.3	86.4	63.4	40.2	17.8	68.6	18.8
13	3	3	大王の時代	古代までの日本	思考・判断	B1	42.9	90.1	58.5	20.1	2.3	87.8	21.8
14	3	4	平城京	古代までの日本	知識・理解	A	54.2	96.0	71.1	31.6	15.0	81.0	0.8
15	3	5	文化の国風化	古代までの日本	思考・判断	B1	71.4	95.0	83.9	60.1	32.8	62.2	0.7
16	3	6	武家政権の成立と展開	中世の日本	知識・理解	A	22.5	57.4	25.0	11.8	5.1	52.3	0.7
17	3	7	民衆の成長	中世の日本	資料活用	B1	20.4	43.7	18.9	15.1	14.3	29.4	1.5
18	3	8	室町文化	中世の日本	知識・理解	A	67.0	95.5	82.5	53.8	16.7	78.8	9.3
19	3	9	室町文化	中世の日本	知識・理解	A	92.6	99.2	97.2	92.2	67.3	31.9	1.1
20	4	1	近畿地方の人口	地域の規模に応じた調査	資料活用	B1	57.5	88.3	70.1	44.8	13.3	75.0	3.5
21	4	1	近畿地方の人口	地域の規模に応じた調査	知識・理解	A	60.9	90.6	75.1	47.5	14.5	76.1	10.0
22	4	2	天平文化	古代までの日本	知識・理解	A	68.3	95.7	82.6	53.2	31.2	64.5	1.0
23	4	3	都道府県の調査	地域の規模に応じた調査	思考・判断	B2	20.7	66.1	25.5	4.7	0.1	66.0	27.1
24	4	4	世界遺産	古代までの日本	思考・判断	B2	70.7	97.6	88.2	57.9	12.8	84.8	15.8
25	5	1	日本の地域構成	世界と日本の地域構成	思考・判断	B1	36.6	64.1	39.1	28.8	19.2	44.9	1.5
26	5	2	日本の地域構成	世界と日本の地域構成	資料活用	B2	53.0	85.7	65.1	38.2	16.0	69.7	1.9
27	5	3	都道府県の調査	地域の規模に応じた調査	思考・判断	B2	56.5	93.9	76.1	35.8	5.4	88.5	21.9
28	5	4	都道府県の調査	地域の規模に応じた調査	思考・判断	B2	52.8	86.3	69.1	36.1	5.5	80.8	20.3
29	6	1	律令国家の成立	古代までの日本	知識・理解	A	40.4	77.4	47.8	25.8	15.9	61.5	1.4
30	6	2	奈良時代の人々の暮らし	古代までの日本	思考・判断	B1	31.8	46.2	34.9	27.5	15.9	30.3	2.0
31	6	3	鎖国化の対外関係	近世の日本	思考・判断	B2	42.6	81.3	54.9	25.9	4.3	77.0	21.5
32	6	4	歴史の流れ	近世の日本	思考・判断	B2	37.0	72.5	46.8	22.4	5.2	67.3	20.2

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 知識・理解** — 地理的・歴史的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■海洋名や日本の領域について理解する。
■室町文化や天平文化の特徴について理解する。
- 資料活用** — 地理的・歴史的事象に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができるかどうかをみる問題。
(例) ■地形図を基に、地域の変化の原因を読み取る。
■銅鐸に描かれた絵の資料を基に、稲作の広がりを説明する。
- 思考・判断** — 複数の資料から関連や背景を読み取り、多面的・多角的に考察することができるかどうかをみる問題。
(例) ■旅客輸送機関別の資料等を基に、鉄道の利点について考察する。
■会話文と絵踏みに関する資料を基に、幕府の政策目的について考察する。

■ 課題等

世界と日本の地域構成

- ◆ 海洋の分布や地図上の方位と大陸の分布に関する理解に課題がある。
- ◆ 北海道の道庁所在地についての理解に課題がある。

地域の規模に応じた調査

- ◆ 新旧2つの地形図から、地域の変化を読み取ることに課題がある。
- ◆ 資料から浮かび上がった疑問を基に仮説を設定する段階での学習に課題がある。

古代までの日本

- ◇ 平安時代の文学作品から、その特徴を示す資料等を選択する問題（大問3小問5）については、設問別通過率が71.4%であり、領域の目標値65.0%を上回っている。
- ◆ 律令体制に基づく戸籍の在り方の変化に関する理解に課題がある。
- ◆ 中国の歴史資料から、日本と中国の交流に関わる大王の行動について考察することに課題がある。

中世の日本

- ◇ 水墨画の資料から、その絵画の特徴を選択する問題（大問3小問9）については、設問別通過率が92.6%であり、領域の目標値63.8%をかなり上回っている。
- ◆ 山城国一揆の資料から、当時の下克上の風潮を読み取る際に、その内容を正確に吟味することに課題がある。

近世の日本

- ◆ 幕府が禁教徹底のためにとった絵踏や宗門人別改帳の目的について、資料から考察することに課題がある。
- ◆ 国民一人一人の国勢調査への参加・協力が重要であることを、資料から考察することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

世界と日本の地域構成

- 地球儀や様々な地図の活用を重視
 - ・ 地球儀と各種の地図を併用して、それぞれの特徴を意識させながら、大陸と海洋の分布等について名称と位置などの理解を促すことが大切である。また、方位や緯線、経線、時差などについては、生徒が理解しているかどうかを、板書等で図示し、繰り返し確認することが重要である。

地域の規模に応じた調査

- 地形図やグラフなどの資料を様々な角度から読み取る学習を重視
 - ・ 新旧2つの地形図等を比較・検討することは、その地域のさまざまな変化を読み取ることができるとともに変化の背景や要因、地域の抱える課題や将来像も明らかになってくるので授業においても積極的に取り上げることが必要である。また、縮尺や方位、地図記号などの基本的な知識を身に付けさせておくことも重要である。
- 様々な資料から課題を設定したり、調査してまとめたりする学習を重視
 - ・ 地理的分野の学習では、なぜこの地域にはこのような地理的事象が見られるのかという問いかけを基に、追求課題を設定し、分析・考察していくが、その際、地理的な見方や考え方の基礎を培うことが大切である。

古代までの日本

- 関心ある主題を設定しまとめる活動を通して、歴史を学ぶ意欲を高めることを重視
 - ・ 歴史的分野の学習では、関心ある主題を設定し、複数の資料を比較して、それぞれの特色や変化に気付かせながら、歴史的事象についてまとめさせる学習場面を設けることが大切である。
 - ・ 文化遺産の学習については、身近な地域の文化財をはじめ、それぞれの地域的特質と関連づけながら、現在まで伝わっている文化遺産の価値を考えさせ、それらを尊重する態度を育成することが大切である。

中世の日本

- 資料の読み取り等を通して、歴史的事象についての理解を深める学習を重視
 - ・ 様々な資料（文献や絵図など）を活用して、歴史的事象を多面的・多角的に考察させ、適切に表現させることを通して、生徒の学習活動をより活発で主体的なものにし、理解を深めるようにする。
 - ・ 中世の時代に生み出された新たな文化の特色は、現在の生活にまで引き継がれているものがあることを様々な資料から読み取らせ、気付かせることが大切である。

近世の日本

- 資料から多面的・多角的に読み取る力を身に付ける学習を重視
 - ・ 歴史学習においては、様々な特徴をもつ数多くの資料に触れさせ、複数の資料から共通点やその違いに気付かせるとともに、その資料が示している時代背景や、政治・経済・文化との関連など、資料から多面的・多角的に読み取る力を身に付けさせることが大切である。

3 中学校2年:数 学

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

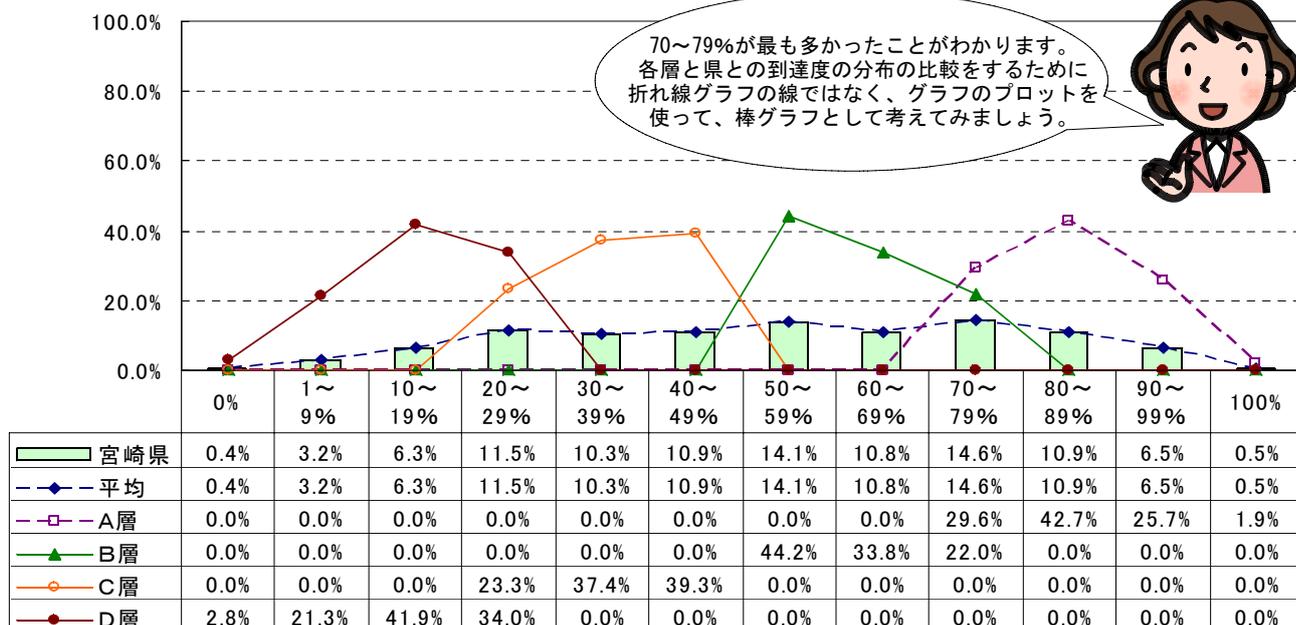
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	54.0	85.5	61.8	37.1	15.2
		表現・処理(技能)	60.1	92.0	70.5	42.7	15.8
		知識・理解	55.3	84.1	60.3	40.5	22.5
	領域	数学的な考え方	34.8	67.2	37.1	17.4	7.0
		数と式	56.9	89.2	65.4	39.3	16.0
		関数	62.3	94.6	75.2	43.5	14.9
		図形	40.1	74.6	43.5	21.9	7.7
	分類	資料の活用	60.6	77.0	64.4	55.4	34.2
		基礎的・基本的な内容	63.9	90.7	73.4	50.4	22.7
課題を解決する力		44.2	86.0	51.0	19.6	4.1	
達成率	観点	活用する力	32.4	63.7	35.0	15.4	5.1
		教科全体	36.0	100.0	33.2	0.0	0.0
		表現・処理(技能)	43.2	100.0	55.6	0.1	0.0
	領域	知識・理解	26.9	75.5	22.6	1.6	0.1
		数学的な考え方	29.0	82.1	23.7	2.1	0.1
		数と式	31.8	93.7	24.9	0.2	0.0
		関数	49.8	97.9	67.3	12.1	0.1
	分類	図形	25.1	78.9	14.9	0.9	0.0
		資料の活用	78.4	96.6	87.0	73.2	38.7
基礎的・基本的な内容		43.3	99.7	55.5	0.7	0.0	
達成率	課題を解決する力	34.2	95.9	30.2	0.6	0.0	
	活用する力	26.6	74.5	21.8	2.3	0.2	

観点・領域・分類	目標値
教科全体	66.6
表現・処理(技能)	70.5
知識・理解	71.7
数学的な考え方	50.7
数と式	72.1
関数	70.0
図形	56.1
資料の活用	63.3
基礎的・基本的な内容	71.5
課題を解決する力	64.4
活用する力	51.0



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



■ 設問別解答状況一覧

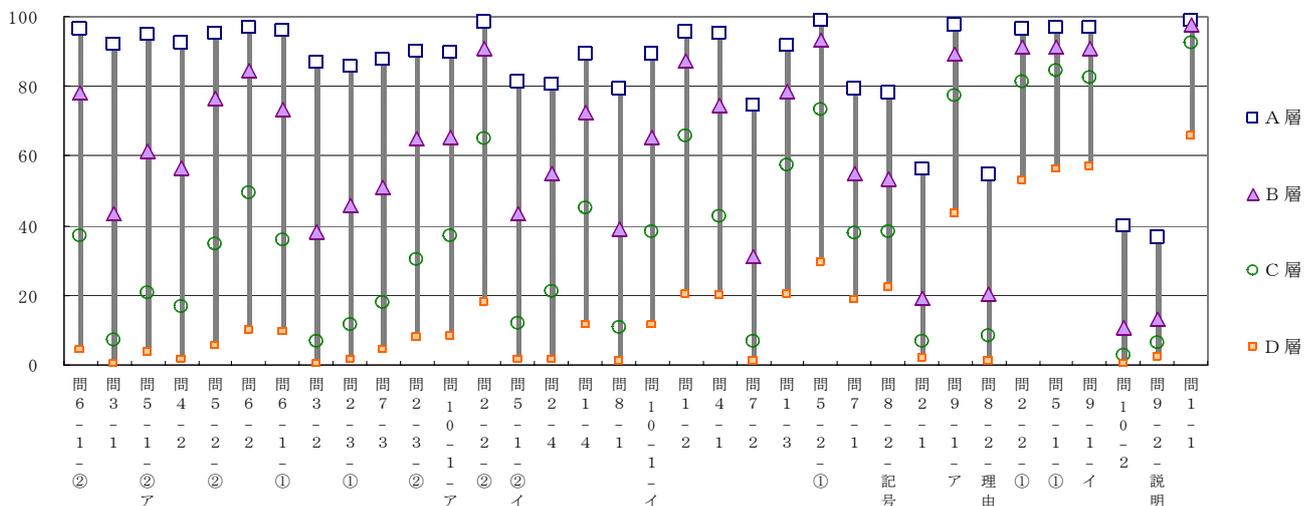
□ 設問別通過率 ※A層～D層の数値は、各層の中で、設問ができた人の割合です。

(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	負の数と負の数の加法	数と式	表現・処理(技能)	A	91.7	98.7	97.7	92.6	65.7	33.0	0.3
2	1	2	数の減法・乗法の計算	数と式	表現・処理(技能)	A	73.4	95.5	87.3	65.7	20.2	75.3	2.2
3	1	3	数の累乗と除法計算	数と式	表現・処理(技能)	A	67.4	91.8	78.6	57.4	20.5	71.3	2.1
4	1	4	文字式の計算	数と式	表現・処理(技能)	A	60.1	89.2	72.6	45.1	11.4	77.8	2.9
5	2	1	数の大小関係	数と式	知識・理解	A	22.7	56.2	19.3	6.9	2.1	54.1	1.8
6	2	2	数の大小関係	数と式	知識・理解	A	84.1	96.5	91.2	81.4	52.9	43.6	1.1
7	2	2	絶対値	数と式	表現・処理(技能)	B1	74.8	98.5	91.0	64.9	17.9	80.6	2.3
8	2	3	文字式の意味	数と式	表現・処理(技能)	B1	39.9	85.6	45.9	11.7	1.5	84.1	9.9
9	2	3	文字式の意味	数と式	表現・処理(技能)	B1	53.2	89.9	64.9	30.4	7.8	82.1	9.8
10	2	4	大小関係を表す式	数と式	表現・処理(技能)	B1	44.1	80.3	54.9	21.2	1.4	78.9	9.6
11	3	1	一次方程式の立式	数と式	表現・処理(技能)	B1	39.3	92.0	43.4	7.2	0.5	91.5	20.6
12	3	2	一次方程式の解法	数と式	表現・処理(技能)	B1	36.1	86.7	38.1	6.5	0.4	86.3	26.3
13	4	1	数の増え方の規則性	数と式	数学的な考え方	B2	62.8	95.2	74.4	42.7	20.1	75.1	8.0
14	4	2	文字式の利用	数と式	数学的な考え方	B2	46.5	92.5	56.5	16.8	1.6	90.9	20.6
15	5	1	座標の読み	関数	知識・理解	A	85.6	96.8	91.4	84.6	56.2	40.6	1.3
16	5	1	比例のグラフ	関数	知識・理解	A	50.0	94.8	61.6	20.8	3.4	91.4	10.5
17	5	1	比例のグラフ	関数	知識・理解	A	38.1	81.4	43.5	11.8	1.6	79.8	11.6
18	5	2	比例の意味	関数	表現・処理(技能)	A	79.6	99.0	93.1	73.3	29.5	69.5	5.9
19	5	2	比例の意味	関数	表現・処理(技能)	A	59.0	95.1	76.3	34.7	5.5	89.6	8.6
20	6	1	反比例の意味	関数	表現・処理(技能)	A	59.2	95.9	73.4	35.9	9.4	86.5	9.2
21	6	1	反比例の意味	関数	表現・処理(技能)	A	60.4	96.6	77.9	37.2	4.2	92.4	11.8
22	6	2	反比例のグラフ	関数	表現・処理(技能)	A	66.7	96.8	84.4	49.3	9.8	87.0	7.4
23	7	1	線対称の意味	図形	知識・理解	A	50.9	79.2	55.0	37.7	18.6	60.6	1.2
24	7	2	おうぎ形の面積	図形	数学的な考え方	B1	30.9	74.4	31.1	6.7	1.3	73.1	23.5
25	7	3	垂直二等分線の作図	図形	表現・処理(技能)	B1	44.2	87.7	51.1	17.8	4.5	83.2	17.4
26	8	1	角柱の体積	図形	表現・処理(技能)	B1	35.7	79.1	39.0	10.6	1.3	77.8	21.5
27	8	2	投影図	図形	数学的な考え方	A	50.7	77.9	53.2	38.2	22.2	55.7	16.8
28	8	2	投影図	図形	数学的な考え方	B2	22.9	54.5	20.6	8.3	1.1	53.4	37.1
29	9	1	度数分布表	資料の活用	表現・処理(技能)	A	81.3	97.6	89.4	77.4	43.5	54.1	2.2
30	9	1	度数分布表	資料の活用	表現・処理(技能)	A	84.9	96.8	90.8	82.3	56.8	40.0	2.4
31	9	2	代表値	資料の活用	数学的な考え方	B2	15.6	36.6	13.1	6.3	2.4	34.2	30.6
32	10	1	対称移動	図形	表現・処理(技能)	A	55.2	89.7	65.2	36.9	8.5	81.2	9.3
33	10	1	回転移動	図形	表現・処理(技能)	A	55.9	89.1	65.5	38.3	11.4	77.7	9.7
34	10	2	図形の移動の説明	図形	数学的な考え方	B2	14.3	39.7	10.6	2.8	0.4	39.3	24.0

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 表現・処理** — 事象を数理的に処理し、文字式、グラフ、作図などを用いて表現することができるかどうかをみる問題。
(例) ■数の四則計算や一次方程式の立式、角柱の体積を求める。
■反比例のグラフをかくことや垂直二等分線を作図する。
- 知識・理解** — 数と式、関数、図形領域における基礎・基本的な内容を理解しているかどうかをみる問題。
(例) ■数の大小関係や文字式の意味を理解する。
■座標や比例の関係について理解する。
- 見方・考え方** — 事象を数学的にとらえ、数式や数量関係を用いて、論理的に問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■見いだした数学的な事実や事柄が成り立つ理由を説明する。
■事象から、条件や性質、規則性を見だし、問題の解決を図る。

■ 課題等

数と式

- ◇ 負の数と負の数の加法の計算を問う問題（大問1小問1）については、設問別通過率91.7%であり、領域の目標値72.1%をかなり上回っている。
- ◇ 数の大小を問う問題（大問2小問2①）については、設問別通過率が84.1%であり、領域の目標値をかなり上回っている。
- ◇ 絶対値の等しい2つの数を選ぶ問題（大問2小問2②）については、設問別通過率が74.8%であり、領域の目標値をやや上回っている。
- ◆ 図形における数量を、文字を用いて表現することに課題がある。（大問2小問3）
- ◆ 数量の関係を不等式や方程式で表現・処理することに課題がある。（大問2小問4、大問3）小学校算数でも同様の傾向が見られる。
- ◆ 規則性のある数量関係を文字式を用いて表現することに課題がある。（大問4小問2）

関数

- ◇ 座標の読みを問う問題（大問5小問1①）については、設問別通過率85.6%で領域の目標値70.0%をかなり上回っている。
- ◇ 比例の意味を問う問題（大問5小問2①）については、設問別通過率79.6%であり、領域の目標値を上回っている。
- ◆ 比例グラフから、 x 、 y の関係を式に表すことに課題がある。（大問5小問1②）

図形

- ◆ 数学的な考え方をを用いておうぎ形の面積を求める問題（大問7小問2）については、設問別通過率30.9%であり、領域の目標値56.1%をかなり下回っている。
- ◆ 垂直二等分線を作図することに課題がある。（大問7小問3）
- ◆ 角柱の体積を求めることに課題がある。（大問8小問1）
- ◆ 角柱の投影図が不適切である理由を問う問題（大問8小問2②）については、設問別通過率22.9%であり、領域の目標値をかなり下回っている。
- ◆ 図形の移動方法や移動順序の説明を問う問題（大問10小問2）については、設問別通過率14.3%であり、領域の目標値をかなり下回っている。

資料の活用

- ◇ 資料を整理して度数を問う問題（大問9小問1ア、イ）については、それぞれ設問別通過率81.3%、84.9%であり、領域の目標値63.3%をかなり上回っている。
- ◆ 具体的な数値を代表値を用いて比較し、判断・表現する問題（大問9小問2）については、設問別通過率15.6%であり、領域の目標値をかなり下回っており、特に課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

数と式

- 基礎的・基本的な事項を定着させ、計算を習熟させる学習の重視
 - ・ 負の数や指数、文字式を含む四則計算において、符号や計算順に気を付けて確実に計算する力を定着させることが大切である。
 - ・ 数の大小関係や絶対値の意味について、数直線上に表すなどして確実に理解させることが必要である。
- 文字を用いることの必要性や意味を理解し、文字式を用いて表す学習の重視
 - ・ 様々な事象の数量の関係や法則を、文字式の表し方にしたがって簡潔に表現できるようにすることが必要である。
 - ・ 文字式を利用して、数量の関係を具体的な数から抽象的な数の関係に還元して考えさせることが重要である。
- 方程式の必要性と意味、解法を理解し、方程式を利用して問題解決をする学習の充実
 - ・ 着目する必要がある数量を見だし、数量の関係を立式し、解を求めることができるように指導することが重要である。

関数

- 比例、反比例の意味や、表、式、グラフなどとの関連を理解させる学習の重視
 - ・ 事象の中における二つの数量の変化や対応から比例や反比例の関係を見だし、表現することができるように指導することが大切である。
 - ・ グラフから式を求めたり、式からグラフを求めたりして、グラフの特徴と式とを関連づけて考えさせることが必要である。

図形

- 平面及び空間における図形の基本事項を定着させ、面積や体積を求める計算を習熟させる学習の充実
 - ・ 平面や空間図形の基本性質を理解させ、身近な事象を線対称などの図形の性質と関連させながらとらえさせることが大切である。
 - ・ 手順に基づいた作図の技能を身に付けさせるとともに、基本的な作図の中にある図形の対称性に着目させることを通して、図形に対する見方や考え方を深めさせるように指導することが必要である。
 - ・ 基本的な図形の面積や体積の求め方を理解させるとともに、図形の特徴をとらえて求めることができるように指導することが重要である。
 - ・ 空間図形を投影図に表現する技能を身に付けさせることが大切である。
- 図形の性質を見いだしたり、数学的な表現を用いたりして、自分なりに説明し伝え合う活動をさせる学習の重視
 - ・ 課題の解決を図るために、対称移動や回転移動などの対称性に着目して、見通しをもって考えるなど、数学的な表現を用いて論理的に説明する力を身に付けさせる指導が重要である。

資料の活用

- 資料を表やグラフに整理し、度数分布表や代表値に着目してその資料の傾向を読み取らせる学習の充実
 - ・ 資料を度数分布表に整理したり、平均値、中央値、最頻値などの代表値の必要性と意味を理解し、その値を求められるようにすることが大切である。
 - ・ 資料の特徴や傾向をとらえ、代表値などを用いて判断し、説明することができるように指導することが重要である。

4 中学校2年:理 科

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

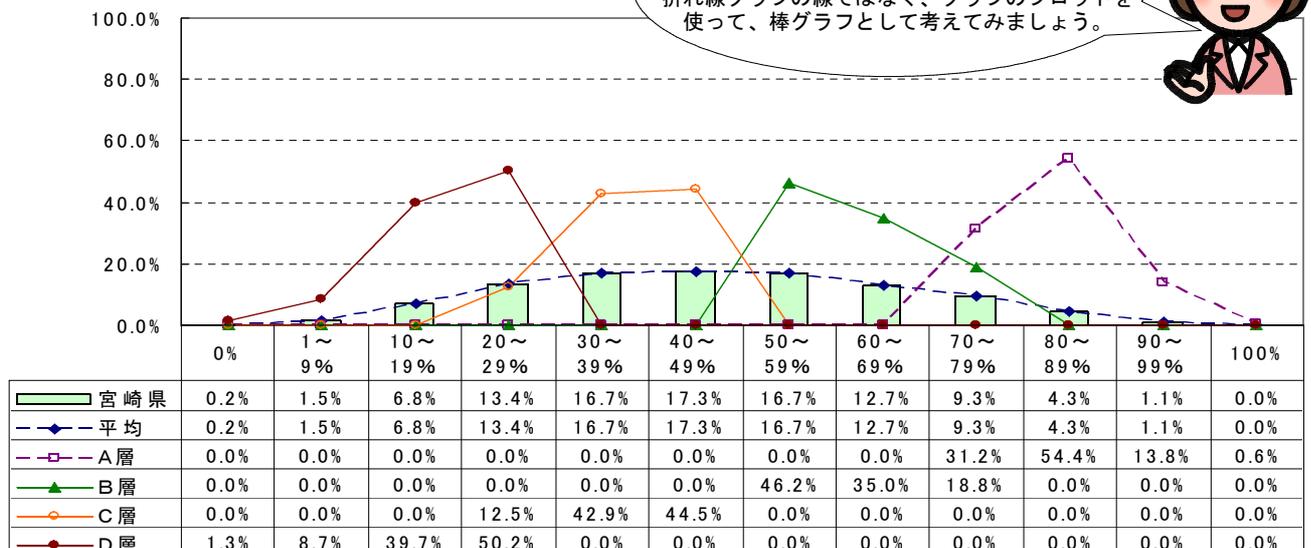
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	45.5	82.1	60.1	37.0	17.0
		知識・理解	56.8	91.8	74.6	48.4	22.2
		科学的な思考	27.6	70.5	39.2	17.3	6.5
	領域	技能・表現	41.6	72.3	51.6	35.8	19.3
		生物的領域	58.8	91.6	77.6	51.4	20.7
		地学的領域	45.8	76.5	56.1	40.3	22.4
		化学的領域	46.1	85.5	63.3	35.6	15.4
	分類	物理的領域	34.5	78.6	48.8	23.1	9.6
		基礎的・基本的な内容	56.6	89.9	73.0	48.9	23.8
		課題を解決する力	38.0	76.8	51.4	29.0	12.2
達成率	観点	活用する力	20.1	64.4	30.6	9.3	2.1
		教科全体	18.6	100.0	29.5	0.0	0.0
		知識・理解	30.0	99.5	59.9	1.2	0.0
	領域	科学的な思考	16.8	92.2	25.2	1.0	0.0
		技能・表現	10.8	56.9	15.2	2.0	0.1
		生物的領域	47.8	99.0	81.1	27.2	0.4
		地学的領域	20.8	89.1	34.2	3.7	0.0
	分類	化学的領域	22.9	84.8	39.6	4.7	0.2
		物理的領域	15.8	91.2	23.0	0.7	0.0
		基礎的・基本的な内容	21.5	96.6	38.3	0.2	0.0
達成率	課題を解決する力	14.1	91.4	18.7	0.2	0.0	
	活用する力	15.2	70.0	23.2	3.1	0.3	
	活用する力	15.2	70.0	23.2	3.1	0.3	

目標値	観点	教科全体	65.5
		知識・理解	72.8
		科学的な思考	54.4
	領域	技能・表現	62.0
		生物的領域	68.6
		地学的領域	65.6
		化学的領域	70.0
	分類	物理的領域	60.6
		基礎的・基本的な内容	74.3
		課題を解決する力	58.8
活用する力	48.3		



達成率を見ると、
集団全体と各層で、
設定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



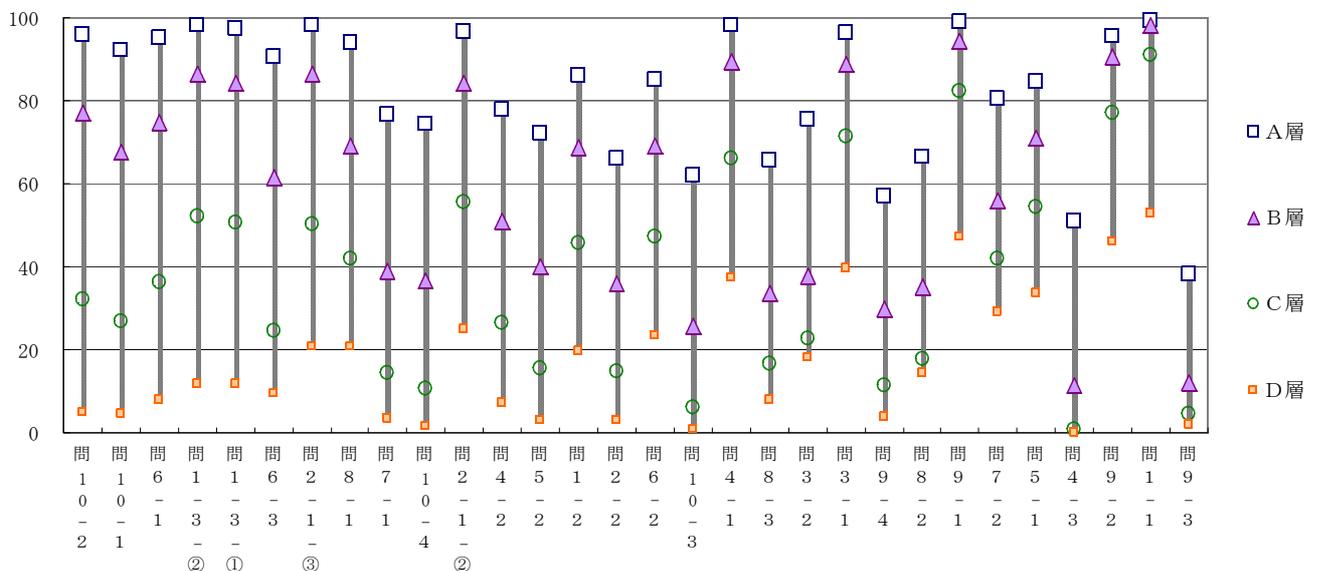
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数值は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	子葉による分類	生物的領域	知識・理解	A	87.7	99.3	98.2	90.9	52.8	46.5	3.3
2	1	2	双子葉類のなかま	生物的領域	知識・理解	A	52.7	86.2	68.5	45.8	19.7	66.5	0.3
3	1	3	種子植物のなかま分け	生物的領域	知識・理解	B1	59.9	97.4	84.2	50.7	11.8	85.6	10.6
4	1	3	種子植物のなかま分け	生物的領域	知識・理解	B1	61.2	98.0	86.4	52.0	11.6	86.4	10.9
5	2	1	植物の光合成と呼吸	生物的領域	知識・理解	A	63.8	96.6	84.1	55.4	24.9	71.7	0.5
6	2	1	植物の光合成と呼吸	生物的領域	知識・理解	A	62.0	98.0	86.4	50.3	20.6	77.4	1.0
7	2	2	対照実験の説明	生物的領域	科学的な思考	B1	24.5	66.0	35.8	14.9	3.1	62.9	8.1
8	3	1	示相化石	地学的領域	知識・理解	A	74.2	96.4	88.5	71.5	39.7	56.7	0.3
9	3	2	地層の読み取り	地学的領域	科学的な思考	B1	31.5	75.4	37.8	22.6	18.1	57.3	0.5
10	4	1	初期微動継続時間の読み取り	地学的領域	知識・理解	A	72.1	98.1	89.5	65.9	37.2	60.9	0.5
11	4	2	震源に近い理由	地学的領域	技能・表現	A	36.1	77.8	51.0	26.5	7.3	70.5	4.7
12	4	3	震源までの距離の計算	地学的領域	科学的な思考	B1	8.6	51.1	11.5	0.9	0.1	51.0	14.0
13	5	1	温度計の読み取り	化学的領域	技能・表現	A	59.2	84.7	71.1	54.3	33.4	51.3	0.6
14	5	2	状態変化のようすの説明	化学的領域	科学的な思考	B1	26.6	72.1	39.9	15.4	3.0	69.1	10.1
15	6	1	水溶液の説明	化学的領域	知識・理解	A	50.0	95.0	74.9	36.2	7.9	87.1	5.7
16	6	2	砂糖水のモデル図	化学的領域	科学的な思考	A	54.0	84.8	69.0	47.2	23.4	61.4	2.2
17	6	3	質量パーセント濃度の計算	化学的領域	知識・理解	B1	40.6	90.7	61.6	24.7	9.3	81.4	9.2
18	7	1	物体が押す力	物理的領域	知識・理解	A	26.3	76.5	38.9	14.5	3.4	73.1	7.9
19	7	2	圧力の計算	物理的領域	知識・理解	B1	47.8	80.4	55.9	41.9	28.9	51.5	7.2
20	8	1	音のたたくき方による音の違い	物理的領域	知識・理解	A	52.2	93.9	69.0	42.0	20.6	73.3	0.6
21	8	2	振動数や振幅	物理的領域	知識・理解	A	27.3	66.4	35.1	17.9	14.3	52.1	1.0
22	8	3	共鳴しない理由	物理的領域	技能・表現	B1	25.0	65.7	33.4	16.5	7.9	57.8	10.0
23	9	1	断層	地学的領域	知識・理解	A	81.9	98.9	94.2	82.4	47.1	51.8	5.1
24	9	2	断層のつき方	地学的領域	技能・表現	B1	78.1	95.4	90.5	77.0	46.2	49.2	1.1
25	9	3	プレートの動きの読み取り	地学的領域	技能・表現	B1	9.6	38.0	12.2	4.7	1.9	36.1	4.9
26	9	4	平らな地形が現れた説明	地学的領域	科学的な思考	B2	20.4	57.1	29.9	11.4	3.8	53.3	17.7
27	10	1	浮力がはたらくている理由	物理的領域	科学的な思考	B1	42.9	91.9	67.4	26.9	4.7	87.2	15.6
28	10	2	浮力の大きさ	物理的領域	知識・理解	A	48.8	96.0	77.1	32.1	4.8	91.2	9.8
29	10	3	浮力の説明	物理的領域	科学的な思考	B2	16.5	61.8	25.5	6.0	0.7	61.1	7.1
30	10	4	石が沈む理由	物理的領域	科学的な思考	B2	23.4	74.3	36.5	10.5	1.6	72.7	14.6

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

- 技能・表現** — 観察・実験の基本操作の技能とともに、自然の事物・現象を科学的に探究し、そこから導き出した考えを表現できるかどうかをみる問題。
(例) ■ グラフから、地震が発生した年代を読み取ることができる。
■ 異なる音さは、共鳴しないことを説明できる。
- 知識・理解** — 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■ 力の大きさについて理解している。
■ 音の波形から、振動数や振幅の違いを判断できる。
- 科学的な思考** — 自然の事物・現象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決することができるかどうかをみる問題。
(例) ■ グラフから、震源までの距離を求めることができる。
■ 実験を基にして、浮力について説明できる。

■ 課題等

生物学的領域

- ◇ 子葉の特徴から、植物を分類する問題（大問1小問1）については、設問別通過率87.7%であり、領域の目標値68.6%をかなり上回っている。
- ◆ 対照実験の目的を説明する問題（大問2小問2）については、設問別通過率24.5%であり、観点（科学的な思考）の目標値54.4%をかなり下回っている。どのようなことを確認するために対照実験を行うのかその意味と必要性を理解し、説明することに課題がある。

地学的領域

- ◇ 断層の名称や断層のでき方を問う問題（大問9小問1、2）については、それぞれ設問別通過率81.9%、78.1%であり、領域の目標値65.6%を上回っている。
- ◆ グラフを基に、震源からB地点までの距離を求める問題（大問4小問3）については、設問別通過率8.6%であり、領域の目標値65.6%をかなり下回っている。与えられたグラフから必要なデータを抽出し、計算することに課題がある。

化学的領域

- ◆ 温度計に示された温度のときの物質の状態を問う問題（大問5小問2）については、設問別通過率26.6%であり、観点（科学的な思考）の目標値54.4%をかなり下回っている。与えられたグラフから、様々な温度における物質の状態を判断することに課題がある。
- ◆ 砂糖水を素材に、溶媒、溶質について説明した文章を完成させる問題（大問6小問1）については、設問別通過率50.0%であり、観点（知識・理解）の目標値72.8%をかなり下回っている。溶媒、溶質についての基礎的・基本的な知識の習得に課題がある。

物理的領域

- ◆ 力と圧力の概念の理解に課題がある。
- ◆ 音の波形から、振動数や振幅の違いを判断する問題（大問8小問2）については、設問別通過率27.3%であり、観点（知識・理解）の目標値72.8%をかなり下回っている。
- ◆ 実験を基にして、浮力について説明する問題（大問10小問3）については、設問別通過率16.5%であり、観点（科学的な思考）の目標値54.4%をかなり下回っている。水中にある物体が、水から受ける圧力による力の合力は、鉛直上向き（重力と反対の向き）であることを理解することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています

■ 指導改善のポイント

生物学的領域

- 植物のつくりをおさえ、なかま分けの着目点を理解させることを重視
 - ・ 観察や実験などを通して、植物のつくりや特徴を確実に理解させた上で、身近な植物等のなかま分けを知識と結び付けて実際に行わせることが大切である。
- 対照実験の目的と必要性を理解させることを重視
 - ・ 観察・実験を行うにあたって、実験結果が調べようとする試料によるものであることを明らかにするために、対照実験として必要な実験を考えさせる等して、その目的と必要性を理解させることが重要である。

地学的領域

- 地震の観測記録（グラフ等）から必要なデータを抽出させることを重視
 - ・ 与えられた観測記録から、初期微動継続時間等の必要な情報を抽出し、その速度や震源までの距離など具体的に求めることができるようにする必要がある。
- プレートの動きなどの資料から必要な情報を抽出し、活用させることを重視
 - ・ グラフや図などから、問いに見合った必要な情報を抽出し、それらと既存の知識を結び付けて活用することで、題意に沿った適切な解答や説明ができるようにすることが大切である。

化学的領域

- 温度変化に伴う物質の状態変化について理解させることを重視
 - ・ 物質が状態変化するとき、そのデータをグラフに表すとどのような変化を示すのかを確実に押さえ、温度計を正しく読み取る力と、そのときの物質の状態をグラフ等から判断する力をつけさせることが重要である。
- 溶質が溶媒にとける変化や質量パーセント濃度の求め方を理解させることを重視
 - ・ 溶質、溶媒について押さえ、溶質が溶媒にとける変化をモデルを使って表現させたり、水溶液の濃さを具体的に求めさせたりしながら、水溶液の性質について理解させることが重要である。

物理的領域

- 物体が押す力と圧力の定義を理解させることを重視
 - ・ 物体が押す力と圧力の定義を理解させ、圧力についてはその値を求められるようにする。また、同じ大きさの力でも、力がはたらく面積の違いによって圧力の大きさは異なることを理解させることが重要である。
- 音の振動数と振幅について理解させることを重視
 - ・ 音の違いによる振動数や振幅の違いを確実に理解させ、示された波形から音の高低、大きさを判断できるようにしたり、共鳴について理解させたりすることが重要である。
- 浮力について理解させ、水中での物の浮き沈みの現象を具体的に説明させることを重視
 - ・ 水中で物が浮いたり、沈んだりする現象を、浮力の知識と結び付け、重力との力関係を矢印で図示させたり、説明させたりしながら理解させることが必要である。

5 中学校2年:英 語

■ 学習到達度調査の概要

□ 学習到達度調査

(%)

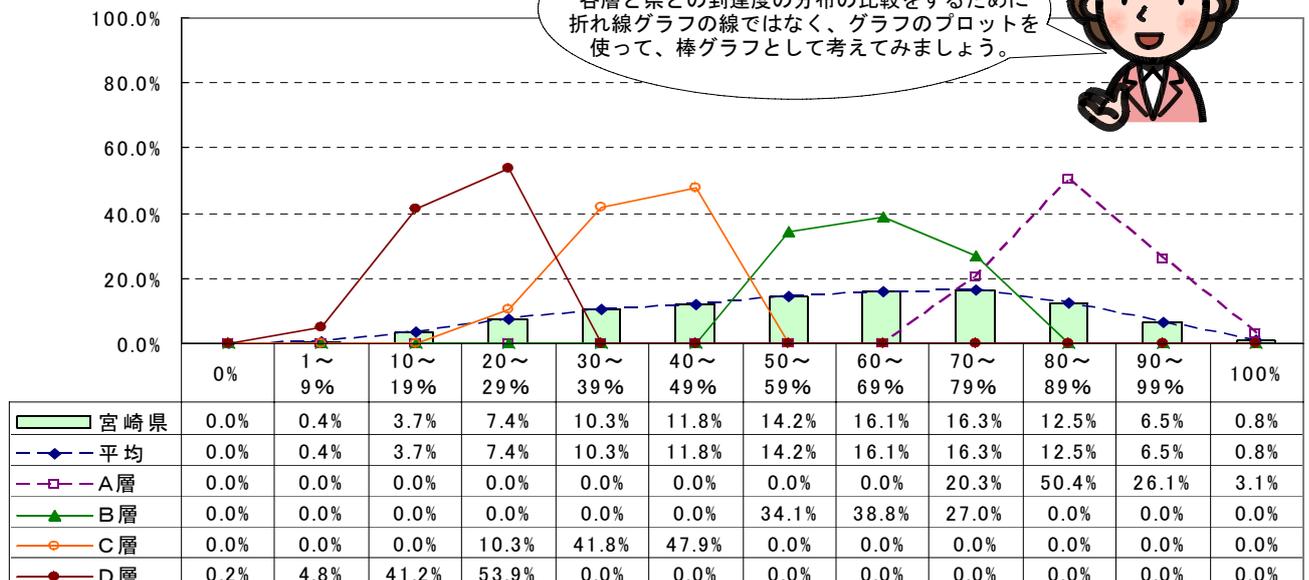
観点・領域・分類		全 県	全県の階層に含まれる児童生徒の平均到達度等				
			A層	B層	C層	D層	
平均到達度	観点	教科全体	57.7	84.7	62.2	37.6	18.0
		理解	60.7	86.6	65.7	40.9	20.7
		知識・理解	61.7	81.7	67.5	47.2	19.6
		表現	37.3	77.0	37.8	10.0	1.2
	領域	聞くこと	62.3	83.5	65.2	48.0	29.8
		読むこと	60.4	89.1	66.8	37.4	15.7
		書くこと	46.2	77.3	49.1	24.5	7.3
	分類	基礎的・基本的な内容	62.1	82.9	65.9	47.8	26.7
		課題を解決する力	59.6	87.8	65.3	37.6	16.2
活用する力		46.8	83.4	51.0	18.6	4.5	
達成率	観点	教科全体	41.5	100.0	40.5	0.0	0.0
		理解	37.7	99.7	31.4	0.0	0.0
		知識・理解	54.9	91.4	62.8	24.6	2.4
		表現	25.9	75.6	17.0	0.5	0.0
	領域	聞くこと	35.6	85.3	32.1	4.7	0.0
		読むこと	45.0	99.0	49.3	0.5	0.0
		書くこと	28.7	81.1	20.5	0.9	0.0
	分類	基礎的・基本的な内容	32.7	86.8	26.4	1.2	0.0
		課題を解決する力	47.1	98.3	53.6	2.1	0.0
活用する力		46.9	99.1	52.5	2.6	0.0	

目標値	観点	教科全体	66.7
		理解	69.5
		知識・理解	65.0
		表現	52.5
	領域	聞くこと	74.4
		読むこと	65.7
		書くこと	58.6
	分類	基礎的・基本的な内容	71.5
		課題を解決する力	69.0
活用する力		54.3	



達成率を見ると、
集団全体と各層で、設
定された目標値を何%
の人が達成したかが
わかります。

□ 到達度分布状況



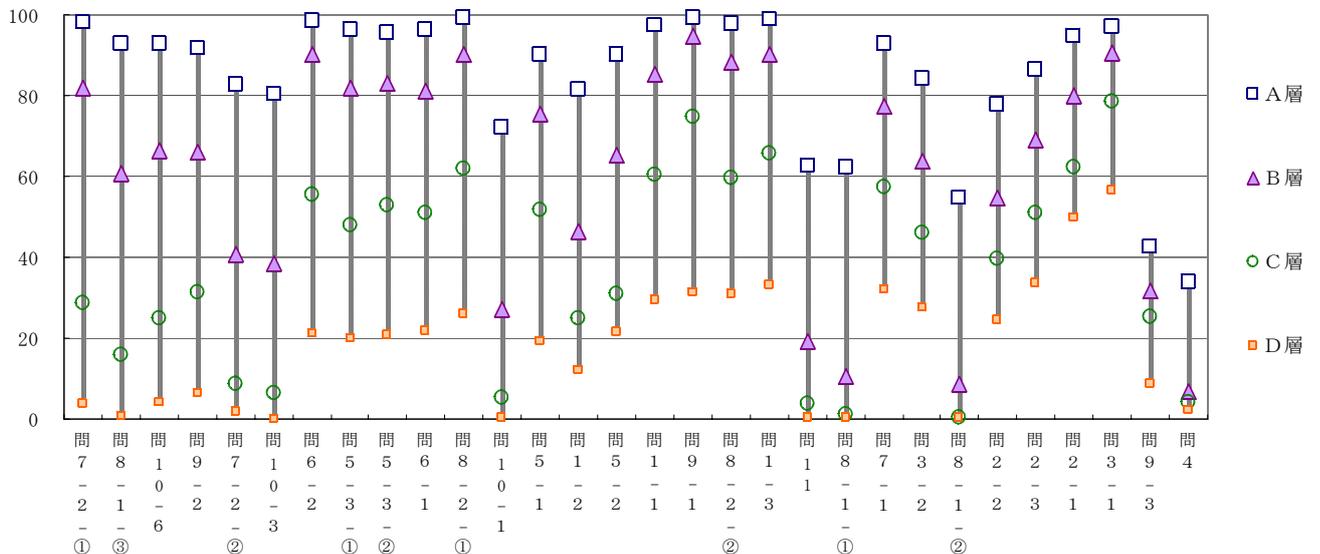
■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率 ※A層～D層の数值は、各層の中で、設問ができた人の割合です。 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	全県	A層	B層	C層	D層	A層～D層	無解答率
通し番号	大問	小問											
1	1	1	身近な慣用表現に対する応答	聞くこと	理解	A	77.0	97.5	85.2	60.2	29.3	68.2	0.3
2	1	2	yes-no疑問文に対する応答	聞くこと	理解	A	46.7	81.6	46.5	24.8	11.9	69.7	0.2
3	1	3	wh-疑問文に対する応答	聞くこと	理解	A	81.1	98.7	90.3	65.7	33.1	65.6	0.2
4	2	1	過去の動作を表す一般動詞の理解	聞くこと	理解	A	76.6	94.7	80.1	62.3	49.9	44.8	0.1
5	2	2	日付に関する序数の理解	聞くこと	理解	A	53.9	77.9	54.6	39.5	24.6	53.3	0.3
6	2	3	時間などを尋ねる疑問文の理解	聞くこと	理解	A	65.5	86.3	68.9	50.9	33.5	52.8	0.6
7	3	1	現在進行形及び形容詞の意味の理解	聞くこと	理解	A	86.1	97.0	90.5	78.4	56.6	40.4	0.2
8	3	2	教科名及び曜日名の理解	聞くこと	理解	A	61.1	84.0	63.7	46.0	27.4	56.6	0.5
9	4	1	聞きとった英語の書き取り	聞くこと	理解	A	12.4	33.8	6.9	4.3	2.1	31.7	4.5
10	5	1	対話文の内容理解	読むこと	理解	B1	68.2	90.2	75.6	51.7	19.5	70.7	0.1
11	5	2	対話文の内容理解	読むこと	理解	B1	58.9	90.1	65.1	30.9	21.5	68.6	0.3
12	5	3	対話文の内容理解	読むこと	理解	B1	71.5	96.2	82.0	48.0	19.8	76.4	0.6
13	5	3	対話文の内容理解	読むこと	理解	B2	73.1	95.6	83.0	53.0	20.7	74.9	0.6
14	6	1	相手へ指示する表現の仕方	読むこと	理解	B1	72.1	96.4	81.2	50.8	22.1	74.3	0.6
15	6	2	相手へ聞き返す表現の仕方	読むこと	理解	B1	77.4	98.4	90.3	55.6	21.1	77.3	0.6
16	7	1	辞書の使い方	読むこと	知識・理解	A	72.2	92.9	77.4	57.5	32.0	60.9	1.1
17	7	2	適切な英単語の選択	読むこと	理解	B2	65.7	98.1	81.9	28.7	3.7	94.4	14.5
18	7	2	適切な英単語の選択	読むこと	理解	B2	39.6	82.7	40.7	8.5	2.0	80.7	15.3
19	8	1	英文(手紙)の内容理解	読むこと	理解	B1	20.2	62.4	10.8	1.3	0.2	62.2	13.9
20	8	1	英文(手紙)の内容理解	読むこと	理解	B1	17.3	54.7	8.7	0.5	0.2	54.5	17.7
21	8	1	英文(手紙)の内容理解	読むこと	理解	B1	52.2	92.8	60.8	16.1	0.6	92.2	13.4
22	8	2	英文(紹介文)の内容理解	読むこと	理解	B1	79.5	99.2	90.1	61.9	25.8	73.4	1.8
23	8	2	英文(紹介文)の内容理解	読むこと	理解	B1	78.3	97.8	88.1	59.7	30.9	66.9	1.9
24	9	1	相手の行動を促す否定命令文の使い方	書くこと	知識・理解	A	85.3	99.4	94.9	74.7	31.4	68.0	1.6
25	9	2	数量の尋ね方	書くこと	知識・理解	A	58.5	91.6	66.2	31.5	6.4	85.2	1.7
26	9	3	所有・所属を表す前置詞の使い方	書くこと	知識・理解	A	30.6	42.7	31.6	25.1	8.5	34.2	3.5
27	10	1	依頼や質問などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	B2	30.3	72.0	27.0	5.1	0.3	71.7	27.6
28	10	3	依頼や質問などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	B2	37.4	80.3	38.4	6.5	0.1	80.2	15.2
29	10	6	依頼や質問などの場面での表現の仕方	書くこと	表現	B2	57.0	92.8	66.3	24.9	4.2	88.6	18.1
30	11	1	写真の説明についての条件英作文	書くこと	表現	B2	24.4	62.7	19.3	3.6	0.2	62.5	26.3

分類	A	基礎的・基本的な内容を問う問題
	B1	基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力を問う問題
	B2	知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力などを問う問題

□ 設問別:各層の通過率 ※A層とD層との差(定着の差)が大きい設問順に左から並べています。



■ 調査問題の趣旨・内容

理解	<p>— 「聞くこと」「読むこと」について基礎的・基本的な知識が身に付いており、知識を生かして読み取ることができるかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■英語での問いかけに適切に応答する。 ■英語を聞いて概要・要点を理解する。 ■英語を正しく聞き取り正確に書き取る。 ■英語を読んで概要・要点を理解する。 ■英語を読んで対話の流れを理解する。 ■英語を読んで対話の詳細を理解する。</p>
知識・理解	<p>— 英語の基本的な文構造や語順などの文法的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■与えられた英語を使って正しい語順で書く。</p>
表現	<p>— 英語が使われる実際の場面において、相手の行動を促したり、自分の考えや気持ち、意向を伝えたりするなど、適切な内容で表現することができるかどうかをみる問題。</p> <p>(例) ■与えられた場面に即して内容を考え、適切に表現する。 ■英文を読んで詳細を理解し、自分の思いや考えを適切に表現する。</p>

■ 課題等

聞くこと

- ◇ 身近な慣用表現に対する応答（大問1小問1）やWh-疑問文に対する応答（大問1小問3）及び現在進行形や形容詞の意味の理解（大問3小問1）は、それぞれの設問別通過率が77.0%、81.1%、86.1%であり、領域の目標値74.4%をかなり上回っている。
- ◆ 日付けに関する英語による序数の理解（大問2小問2）は、昨年に引き続いての出題であったが、設問別通過率53.9%であり、領域の目標値をかなり下回っているが、昨年度(32.0%)より語彙力の充実が図られてきている。
- ◆ 聞き取った英語の書き取り（大問4）は、設問別通過率が12.4%であり、領域の目標値74.4%をかなり下回っており、語と語の連結による音変化を聞き取る力や、文構造の理解に課題がある。

読むこと

- ◇ 対話文の内容理解（大問8小問2①、②）は、設問別通過率が79.5%、78.3%であり、領域の目標値の65.7%をかなり上回っている。
- ◆ 適切な英単語の選択（大問7小問2）は、設問別通過率が39.6%で、領域の目標値65.7%をかなり下回っている。基礎的・基本的な内容を生かして課題を解決する力に課題がある。
- ◆ 英文（手紙）の理解（大問8小問1）は、それぞれの設問別通過率が20.2%、17.3%、52.2%であり、領域の目標値の65.7%をかなり下回っている。

書くこと

- ◇ 相手の行動を促す否定命令文の使い方（大問9小問1）は、設問別通過率が85.3%と領域の目標値58.6%をかなり上回っている。
- ◆ 所有・所属を表す前置詞ofの使い方（大問9小問3）は、昨年、一昨年に引き続いての出題であったが、設問別通過率30.6%であり、領域の目標値58.6%をかなり下回っている。
- ◆ 依頼や質問などの場面における表現や条件英作文（大問10、11）に関する表現では、英語の使用場面と言語の働きを理解して適切に表現することに課題がある。

◇…よくできている点 ◆…課題のある点 下線部は分類B2との関連を示しています。

■ 指導改善のポイント

聞くこと

- 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取る指導を重視
 - ・ 英語を聞き取る際、音の連結や同化、欠落など、語と語の連結による音変化の特徴に慣れ親しませるために、できるだけ自然な口調の英語を何回も聞かせることが大切である。
- 質問や依頼などを聞いて適切に応じる指導を重視
 - ・ 相手からの質問や指示、依頼、提案などその意図を正しく理解し、適切に応じることができるようになるために、聞いて動作に移したり、場面設定を工夫しながら幅広い学習活動を充実させる指導をすることが大切である。
- まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることの指導
 - ・ 話し手が伝えたいことや、聞き手として必要な情報を聞きとり、「書くこと」の言語活動との関連を図った指導を行うことが大切である。

読むこと

- 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じることができる指導を重視
 - ・ 伝言や手紙などの文章を読む際には、場面や状況に留意しながら、書き手がどのような意思や考えを読み手に伝えたいのかを理解させた上で、文脈や前後関係に注意しながら内容に適切に応じるなど「書くこと」と関連付けた指導の工夫が大切である。
- まとまりのある英文を読んで、書かれた内容や考え方などをとらえさせる指導を重視
 - ・ 内容理解にとどまらず、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解させる指導を行うことが大切である。

書くこと

- 基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく書き取る指導を重視
 - ・ 現代の標準的な発音、語と語の連結による音変化などの確に聞き分けて書かせる指導を行うことが必要である。特に、日付に関する序数の理解など音と文字を結びつける指導の充実を図ることが必要である。
 - ・ 語の配列や文構造などにも留意して書くことができるように、必要に応じて文法事項を整理する機会を設けるなどの指導の充実を図ることが必要である。
- 内容的にまとまりのある英文を書く指導を重視
 - ・ 英語の使用場面と言語の働きを理解させ、英文を書く目的や内容及び方法を明確にした指導の充実を図ることが必要である。さらに、書いたものを基にインタビュー活動やショーアンドテルなどの技法を用いた言語活動と関連付けた指導も大切である。
 - ・ 身近な場面における出来事や体験したことなどを自由に書く活動の充実を図り、積極的に自分の思いや考えを文と文のつながりに注意して書かせたり、言葉を置き換えたりして表現させる指導も大切である。

Ⅲ 意識調査の分析結果

Ⅲ-1 小学校

■「授業」に関すること

みやざき学力・意識調査 意識調査設問別回答状況(県全体)

A層・B層・C層・D層は、全教科の到達度を基に上位から4層に分けて表示

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
1	好きな授業	① 国語	72.6	81.9	72.4	58.8	47.2	34.7
		② 社会	58.6	69.0	56.0	47.6	42.5	26.5
		③ 算数	79.4	88.1	78.7	67.7	58.4	29.7
		④ 理科	86.9	91.3	85.5	83.3	79.4	11.9
		⑤ 音楽	79.7	84.4	79.0	73.8	70.8	13.6
		⑥ 図画工作	86.8	86.4	87.1	87.1	85.8	0.6
		⑦ 家庭	93.0	94.5	93.1	90.5	88.2	6.3
		⑧ 体育	88.8	88.1	89.2	89.6	85.5	2.6
		⑨ 道徳	75.4	76.3	75.7	73.4	71.4	4.9
		⑩ 外国語活動	74.7	81.5	73.9	66.4	57.5	24.0
		⑪ 総合的な学習の時間	81.6	88.1	81.9	71.3	60.8	27.3
		⑫ 学級活動	87.8	91.9	88.0	82.5	67.6	24.3
2	授業理解	① 国語	91.5	97.9	92.8	80.5	60.8	37.1
		② 社会	80.2	90.7	79.0	66.5	55.8	34.9
		③ 算数	89.3	97.2	89.6	76.9	66.1	31.1
		④ 理科	92.7	96.5	92.8	87.1	81.4	15.1
		⑤ 音楽	88.9	94.0	88.7	81.3	76.1	17.9
		⑥ 図画工作	94.2	95.8	94.0	92.4	87.3	8.5
		⑦ 家庭	92.5	94.4	92.8	89.8	81.1	13.3
		⑧ 体育	95.9	97.2	96.0	94.3	89.4	7.8
		⑨ 道徳	89.3	93.6	89.7	82.6	72.0	21.6
		⑩ 外国語活動	74.1	83.2	72.6	63.5	53.7	29.5
		⑪ 総合的な学習の時間	88.1	94.4	88.4	78.2	66.7	27.7
		⑫ 学級活動	92.7	96.7	93.6	86.1	69.3	27.4
3	わかりやすい授業	① 先生が一人で学級のみんを教える授業	94.0	97.5	94.4	88.3	79.9	17.6
		② 先生が何人かで学級のみんをいっしょに教える授業	90.5	93.6	90.9	85.9	74.6	19.0
		③ 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える授業	90.8	94.9	90.6	86.3	72.6	22.3
		④ コンピュータを使った授業	88.3	93.2	87.3	83.3	76.4	16.8
		⑤ 学校の先生以外の人教える授業	78.8	85.3	77.3	71.8	66.1	19.2

- 本県の小学5年生が最も好きな授業は家庭科、わかる授業は体育であり、授業形態では「先生が一人で学級のみんを教える」形態を最も肯定的にとらえている。
- A層とD層の児童の差が大きくみられるのは、好きな授業では「国語、社会、算数、外国語活動、総合的な学習の時間、学級活動」、わかる授業では「国語、社会、算数、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、学級活動」であり、学力との関連が深い。

Ⅲ-1 小学校

■「学習」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
4	わからないとき	① 自分一人でやってみる	84.0	90.5	83.5	75.9	64.0	26.5
		② 友だちに聞く	52.6	48.0	53.7	58.6	55.2	-7.2
		③ 家の人に聞く	86.6	88.1	87.4	83.5	75.5	12.6
		④ 学校の先生に聞く	41.0	40.5	39.5	44.1	51.6	-11.1
		⑤ 学習塾や家庭教師の先生に聞く	18.3	16.2	16.9	23.8	31.3	-15.1
		⑥ そのままにしておく	16.1	7.8	16.7	27.0	38.3	-30.5
5	家庭学習のようす	① 授業のための予習をする	62.4	65.8	62.0	58.7	51.9	13.9
		② 授業で習ったことを復習する	83.2	90.4	83.5	72.9	57.2	33.2
		③ 出された宿題をする	95.5	98.1	96.7	91.2	74.3	23.8
		④ 家の人から言われなくても進んで勉強する	79.1	83.9	80.1	70.6	59.0	24.9
		⑤ 自分がおもしろいと思ったことを、進んで勉強する	79.5	83.4	79.5	74.5	65.8	17.6
6	家庭学習	① 学校のある日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	63.5	69.7	62.9	55.5	48.1	21.6
		② 学校のない日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	56.5	62.3	55.3	50.4	43.7	18.6
7	塾	① 1週間で学習塾に通っている日数(4日以上)	6.2	4.7	5.3	10.2	13.6	-8.9
		② 学校のある日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	17.3	19.3	15.2	17.8	23.6	-4.3
		③ 学校のない日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	8.4	7.1	7.0	12.9	20.1	-13.0
8	活用	① あきらめずにいろいろな方法を考える	83.3	92.1	83.1	70.7	58.7	33.4
		② 新しく学習した漢字を普段の生活の中で使おうとする	77.6	85.8	76.6	67.8	53.7	32.1
		③ 普段の生活の中で暗算をすることがある	84.1	92.7	83.9	72.0	56.9	35.8

- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」、「家の人に聞く」と答えた児童の割合が高い。また、「友だちに聞く」、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」と答えた割合は、D層の児童の方がA層の児童よりも高く、中学校の結果（A層の生徒の方がD層の生徒よりも高い）とは異なる傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」と答えた割合については、A層の児童の方が、D層の児童よりもかなり高い。また、「そのままにしておく」と答えた割合は、D層の児童の方が、A層の児童よりもかなり高く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。
- 児童の95.5%が、「出された宿題をする」と答えている。
- 「授業で習ったことを復習する」割合については、A層の児童の方がD層の児童よりも高く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。
- A層の児童はD層の児童に比べ、学校のある日、ない日にかかわらず、家で一人で勉強する時間が長く、学習塾や家庭教師に見てもらっている日数や時間は少ない。
- 家庭学習について肯定的に答えた児童の割合を前年度と比較すると、「学校のある日に、家で一人で勉強する時間」で11.8ポイント、「学校のない日に、家で一人で勉強する時間」で8.4ポイント増えている。
- A層の生徒の方がD層の生徒よりも、「新しく学習した漢字を実際の生活の中で使おうとする」「普段の生活の中で、暗算をすることがある」と答えた割合がかなり高く、学力との関連が深い。

Ⅲ-1 小学校

■「生活」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
9	① 読書	1か月の読書数(4冊以上)	70.4	78.6	70.5	57.8	44.8	33.8
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ 学校以外での過ごし方	① 外で遊ぶ	87.7	85.6	88.8	89.2	83.8	1.8
		② テレビを見たり、マンガを読んだりする	79.5	81.1	78.8	78.2	77.9	3.2
		③ テレビゲームやパソコンなどをする	59.1	57.9	58.6	61.7	64.9	-7.0
		④ 本や新聞を読む	56.7	66.0	54.2	47.1	42.8	23.2
		⑤ 勉強をする	75.0	81.9	74.7	66.0	52.2	29.7
		⑥ そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをする	47.3	58.6	45.1	33.9	28.9	29.7
		⑦ スポーツクラブやスポーツ少年団などの活動をする	48.2	49.2	48.7	46.2	40.7	8.5
		⑧ 公民館や地域の活動に参加する	46.6	48.8	46.7	43.4	38.9	9.9
		⑨ 美術館、図書館、博物館などに行く	36.4	38.0	35.4	36.1	34.5	3.5
		⑩ 家の手伝いをする	77.7	78.8	77.9	76.6	70.5	8.3
		⑪ 家族と過ごしたり、出かけたりする	86.4	88.1	86.5	84.3	78.5	9.6
11	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 家での生活	① 毎朝、自分で起きる	66.0	68.2	65.3	64.9	58.1	10.1
		② 朝ご飯を毎日食べる	95.7	98.5	96.2	91.7	79.6	18.9
		③ 前日か朝に学校に持っていく物を確かめている	88.6	94.4	88.6	80.9	68.4	26.0
		④ 身の回りのことは、できるだけ自分でする	85.7	90.8	85.8	79.4	62.8	28.0
		⑤ 勉強する時間を自分で決めて実行している	64.1	68.2	63.6	58.9	53.4	14.8
		⑥ 夜、決まった時間に寝る	64.1	67.6	63.3	60.8	53.7	13.9
		⑦ 家族でいろいろな話をする	83.2	89.1	82.8	75.4	65.8	23.3
		⑧ テレビを見る時間など家の人とルールを決めている	61.5	67.9	60.2	54.5	49.6	18.3

- A層の児童の方がD層の児童よりも「1か月の読書数」が多く、学力との関連が深い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。さらに、1か月に4冊以上読書をする
と答えた小学5年生は70.4%であったのに対し、中学2年生は37.5%であった。
- 学校以外での過ごし方については、「外で遊んだり家族と過ごしたりすること」が
多く、昨年度と同様の傾向がある。「美術館や図書館、博物館などの文化施設に行く」、
「公民館や地域の活動に参加する」の割合が低い。
- 児童の約8割が、学校以外での過ごし方において、「テレビを見たり、マンガを読
んだりする」と答えている。また、A層の児童の方が、D層の児童よりも「本や新聞
を読む」、「勉強をする」、「お稽古ごとをする」と答えた割合が20ポイント以上高い。
- 児童の95.7%が毎日朝食を食べていると答えており、昨年度と同様の割合である。
- 家での生活においては、A層の児童の方が、D層の児童よりも「前日か朝に学校に
持っていく物を確かめている」、「身の回りのことは、できるだけ自分でする」、「家
族でいろいろな話をする」と答えた割合が20ポイント以上高く、学力との関連が深い。

Ⅲ-1 小学校

■「自分」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした児童の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
12	自分に関すること	① 物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある	91.8	95.9	91.8	86.6	74.9	21.0
		② 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	79.0	85.0	78.3	71.7	61.7	23.3
		③ 自分には、よいところがあると思う	74.9	81.0	74.3	67.5	55.8	25.2
		④ 将来の夢や目標をもっている	88.7	91.6	89.2	84.1	73.5	18.1
		⑤ 世の中のいろいろな出来事に関心がある	77.8	84.6	76.8	69.9	60.5	24.1
		⑥ 学校のきまりを守っている	88.9	93.1	89.3	82.9	69.6	23.5
		⑦ 友だちとの約束を守っている	94.3	97.2	94.8	89.3	81.7	15.5
		⑧ 人が困っているときは、進んで助けている	83.0	86.7	83.5	76.8	70.2	16.5
		⑨ 近所の人に会ったときは、あいさつをしている	93.1	96.2	93.8	88.7	74.0	22.2
		⑩ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	90.2	93.8	91.2	83.5	71.4	22.4
		⑪ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	94.2	97.4	95.1	88.4	79.1	18.3
		⑫ 人の役に立つ人間になりたいと思う	92.7	96.4	93.2	87.5	73.2	23.2

- 肯定的な回答をした児童の割合が90%以上の質問内容は、「物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある」、「友だちとの約束を守っている」、「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」であり、昨年度より多い。
- 「自分」に関することの質問内容の肯定的な答えは、A層とD層の差が大きいものが多く、学力との関連が深い。
- 他の質問内容と比較すると「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」、「自分には、よいところがあると思う」、「世の中のいろいろな出来事に関心がある」に関して肯定的に答える割合が低い。また、中学校でも同様の傾向がみられる。

※ 「全県」は、各問いに対して肯定的な回答をした県全体の児童の割合を表している。また、A層・B層・C層・D層とは、学力検査において、全教科の最高到達度と最低到達度の差を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、学力検査で分けられた各層の児童が、各質問内容に対して肯定的な回答をした人数の割合を示したものである。

※ A層(成績上位層)－D層(成績下位層)のポイントが大きいほど、質問内容は学力と関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■「授業」に関すること

みやざき学力・意識調査 意識調査設問別回答状況(県全体)

A層・B層・C層・D層は、全教科の到達度を基に上位から4層に分けて表示

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
1	好きな授業	① 国語	65.1	70.7	66.0	63.1	58.4	12.3
		② 社会	63.9	76.6	67.9	56.6	50.9	25.7
		③ 数学	58.0	79.2	62.4	48.5	36.8	42.4
		④ 理科	69.8	82.9	72.6	63.2	59.2	23.7
		⑤ 音楽	72.3	74.2	73.7	70.8	67.7	6.5
		⑥ 美術	72.0	71.0	71.6	72.8	73.2	-2.2
		⑦ 保健体育	81.5	75.5	80.7	85.1	81.9	-6.4
		⑧ 技術・家庭	79.2	80.3	80.1	79.5	71.5	8.8
		⑨ 英語	64.3	84.1	72.5	53.1	34.3	49.8
		⑩ 道徳	65.6	61.5	66.0	66.6	67.2	-5.7
		⑪ 総合的な学習の時間	79.8	79.1	81.9	79.8	71.1	8.0
		⑫ 学級活動	86.7	88.0	88.6	86.2	76.6	11.4
2	授業理解	① 国語	85.8	94.4	88.5	82.6	69.9	24.5
		② 社会	73.9	88.8	78.5	66.5	55.5	33.3
		③ 数学	72.0	92.7	77.6	62.4	46.4	46.3
		④ 理科	76.8	90.1	80.0	70.5	62.7	27.4
		⑤ 音楽	81.6	86.3	82.9	80.4	72.0	14.3
		⑥ 美術	84.4	85.3	85.0	84.5	80.3	5.0
		⑦ 保健体育	90.4	90.4	91.1	91.1	84.2	6.2
		⑧ 技術・家庭	83.8	88.0	85.4	82.3	74.1	13.9
		⑨ 英語	70.1	91.9	78.3	58.8	37.0	54.9
		⑩ 道徳	86.4	86.9	88.0	85.7	80.1	6.8
		⑪ 総合的な学習の時間	90.3	92.4	91.9	89.9	79.5	12.9
		⑫ 学級活動	93.2	95.6	95.2	92.5	81.9	13.7
3	わかりやすい授業	① 先生が一人で学級のみを教える授業	89.2	96.8	92.7	85.3	74.8	22.0
		② 先生が何人かで学級のみをいっしょに教える授業	88.6	92.0	90.9	87.3	76.5	15.5
		③ 学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える授業	92.6	95.7	94.6	91.4	82.2	13.5
		④ コンピュータを使った授業	84.0	88.7	85.8	83.1	70.0	18.7
		⑤ 学校の先生以外の人(ALTやゲストティーチャー等)が教える授業	80.3	86.2	82.9	78.8	63.4	22.8

- 本県の中学2年生が最も好きな授業、わかる授業は学級活動であり、授業形態では「学級がいくつかに分かれて、先生がそれぞれについて教える」形態を最も肯定的にとらえており、昨年度と同様の傾向がみられる。
- A層とD層の生徒の差が大きくみられるのは、好きな授業では「国語、社会、数学、理科、英語」、わかる授業においても「国語、社会、数学、理科、英語」であり、学力との関連が深い。特に、「数学、英語」は、A層とD層の差が特に大きく、学力との関連がかなり深い。
- 好きな授業、わかる授業に関して、「美術、保健体育」については、A層とD層の生徒の差があまりみられない。

Ⅲ-2 中学校

■「学習」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
4	わからないとき	① 自分一人でやってみる	84.0	94.8	89.4	78.6	60.0	34.8
		② 友だちに聞く	69.5	63.8	71.0	71.8	62.8	1.0
		③ 家の人に聞く	64.9	68.6	68.0	62.2	54.6	14.0
		④ 学校の先生に聞く	35.6	41.0	38.0	31.8	30.2	10.8
		⑤ 学習塾や家庭教師の先生に聞く	23.2	24.1	23.8	23.5	17.6	6.5
		⑥ そのままにしておく	31.7	14.4	27.3	40.5	48.2	-33.8
5	家庭学習	① 授業のための予習をする	39.1	40.0	37.9	39.9	40.4	-0.4
		② 授業で習ったことを復習する	87.1	92.4	92.6	84.4	62.4	30.0
		③ 出された宿題をする	95.2	98.6	97.6	94.3	81.3	17.3
		④ 家の人から言われなくても進んで勉強する	72.6	79.5	76.3	69.2	55.4	24.1
		⑤ 自分がおもしろいと思ったことを、進んで勉強する	75.0	80.3	77.6	72.8	62.4	17.9
6	家庭	① 学校のある日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	71.1	78.9	74.9	67.9	51.2	27.7
		② 学校のない日に、家で一人で勉強する時間(1時間以上)	77.4	85.5	83.4	73.3	49.9	35.6
7	塾	① 1週間で学習塾に通っている日数(4日以上)	2.4	3.3	1.9	2.1	3.9	-0.6
		② 学校のある日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	25.9	31.5	27.4	23.5	18.6	12.9
		③ 学校のない日に、学習塾等でみてもらう時間(1時間以上)	8.3	8.4	8.0	8.4	9.2	-0.8
8	活用	① あきらめずにいろいろな方法を考える	73.0	91.7	80.4	63.0	44.1	47.6
		② 新しく学習した漢字を実際の生活の中で使おうとする	63.1	73.4	64.7	59.7	50.6	22.8
		③ 普段の生活の中で暗算をすることがある	75.7	87.0	82.3	69.5	48.3	38.7

- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」と答えた生徒の割合が高い。また、「家の人に聞く」、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」と答えた割合は、A層の方がD層の生徒よりも高く、小学校の結果（D層の児童の方がA層の児童よりも答えた割合が高い）とは異なる傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「自分一人でやってみる」割合については、A層の生徒の方がD層の生徒より高い。また、「そのままにしておく」と答えた割合は、D層の生徒の方が、A層の生徒よりも高く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。
- 学習内容がわからないとき、「学校の先生に聞く」、「学習塾や家庭教師の先生に聞く」、「そのままにしておく」と答えた生徒の割合が、他の項目に比べて低い。
- 生徒の95.2%が、「出された宿題をする」と答えている。
- 「授業で習ったことを復習する」割合については、A層の生徒の方がD層の生徒よりも高く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。
- A層の生徒はD層の生徒に比べ、学校のある日、ない日にかかわらず、家で一人で勉強する時間が長く、学力との関連が深い。また、「学校のある日に、家で一人で勉強する時間」で肯定的な回答をした生徒は、前年度と比較すると7.2ポイント増えている。
- わからないとき、「あきらめずにいろいろな方法を考える」と答えた割合は、A層の生徒の方がD層の生徒よりもかなり高く、学力との関連がかなり深い。
- A層の生徒の方がD層の生徒よりも、「新しく学習した漢字を実際の生活の中で使おうとする」「普段の生活の中で、暗算をすることがある」と答えた割合がかなり高く、学力との関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■「生活」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)						
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層	
9	①	読書	1か月の読書数(4冊以上)	37.5	45.2	39.3	33.2	31.9	13.3
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	学校以外での過ごし方	① 外で遊ぶ	72.6	58.6	71.3	78.7	79.4	-20.8
			② テレビを見たりマンガを読んだりする	88.0	89.0	90.1	86.2	82.5	6.5
			③ テレビゲームやパソコンなどをする	66.5	69.2	67.1	64.5	66.3	2.9
			④ 本や新聞を読む	46.2	60.9	48.4	39.0	39.0	21.9
			⑤ 勉強をする	60.9	71.9	65.0	55.0	45.3	26.6
			⑥ そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをする	23.4	33.4	25.3	18.8	15.2	18.2
			⑦ スポーツクラブなどの活動をする	50.1	46.7	50.1	52.7	45.3	1.4
			⑧ 公民館や地域の活動に参加する	17.9	15.3	18.0	18.5	19.9	-4.6
			⑨ 美術館、図書館、博物館などに行く	13.5	15.6	13.3	12.1	16.4	-0.8
			⑩ 家の手伝いをする	61.6	60.9	61.9	61.5	62.3	-1.4
			⑪ 家族と過ごしたり、出かけたりする	76.1	77.6	76.9	75.4	72.2	5.4
11	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	家での生活	① 毎朝、自分で起きる	67.5	66.8	67.9	67.8	65.2	1.6
			② 朝ご飯を毎日食べる	95.2	98.7	97.1	93.6	85.4	13.3
			③ 前日か朝に学校に持って行く物を確かめている	89.2	94.7	92.2	86.4	75.5	19.2
			④ 身の回りのことは、できるだけ自分でしている	86.7	90.4	88.9	85.6	73.6	16.8
			⑤ 勉強する時間を自分で決めて実行している	57.4	63.6	60.1	54.3	45.2	18.4
			⑥ 夜、決まった時間に寝る	46.9	53.8	49.2	43.2	39.5	14.3
			⑦ 家族でいろいろな話をする	76.9	82.6	80.3	73.7	63.5	19.1
			⑧ テレビを見る時間など家の人とルールを決めている	36.5	42.8	38.2	33.1	31.2	11.6

- A層の生徒の方がD層の生徒よりも「1か月の読書数」が多く、学力との関連が深い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。さらに、1か月に4冊以上読書をする と答えた中学2年生は37.5%であったのに対し、小学5年生は70.4%であった。
- 学校以外での過ごし方については、生徒は、「テレビを見たりマンガを読んだりすること」が多く、「美術館や図書館、博物館などの文化施設に行く」、「公民館や地域の活動に参加する」、「そろばん、習字、ピアノなどのお稽古ごとをする」の割合が、かなり低い。
- D層の生徒の方がA層の生徒よりも学校以外での過ごし方において、「外で遊ぶ」と答えた割合が、かなり高く、「本や新聞を読む」、「勉強をする」と答えた割合が、かなり低い。
- 生徒の95.2%が、毎日朝食を食べていると答えており、昨年度と同様の割合である。
- 家での生活においては、「前日か朝に学校に持って行く物を確かめている」、「身の回りのことは、できるだけ自分でする」、「勉強する時間を自分で決めて実行している」、「家族でいろいろな話をする」に関して、A層とD層の差が大きく、学力との関連が深い。

Ⅲ-2 中学校

■ 「自分」に関すること

設問	出題内容	質問内容	肯定的な回答をした生徒の割合(%)					
			全県	A層	B層	C層	D層	A層-D層
12	自分に関すること	物事を最後までやりとげてうれしかったことがある	92.4	95.0	94.8	91.6	79.6	15.4
		難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	64.3	69.1	65.9	62.8	53.6	15.5
		自分にはよいところがあると思う	59.4	68.1	61.0	55.9	50.1	18.0
		将来の夢や目標をもっている	73.6	73.3	74.4	73.8	69.1	4.2
		世の中のいろいろな出来事に関心がある	70.1	80.4	74.0	64.7	54.8	25.6
		学校のきまりを守っている	90.1	94.6	93.0	88.0	77.0	17.6
		友だちとの約束を守っている	95.3	97.3	97.1	94.4	87.2	10.1
		人が困っているときは、進んで助けている	77.5	79.9	79.8	76.5	66.4	13.5
		近所の人に会ったときは、あいさつをしている	92.2	93.0	93.9	91.5	84.7	8.3
		人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	93.0	96.4	95.5	91.3	81.9	14.5
		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	94.9	95.2	96.1	94.7	89.1	6.1
		人の役に立つ人間になりたいと思う	93.7	96.7	95.7	92.4	84.0	12.7

- 「物事を最後までやりとげてうれしかったことがある」、「学校の決まりを守っている」、「友だちとの約束を守っている」、「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒は90%以上である。
- 他の質問内容と比較すると「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」、「自分にはよいところがあると思う」、「世の中のいろいろな出来事に関心がある」に関して肯定的に答える割合が低い。また、小学校でも同様の傾向がみられる。

※ 「全県」は、各問いに対して肯定的な回答をした県全体の生徒の割合を表している。また、A層・B層・C層・D層とは、学力検査において、全教科の最高到達度と最低到達度の差を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、学力検査で分けられた各層の生徒が、各質問内容に対して肯定的な回答をした人数の割を示したものである。

※ A層(成績上位層)－D層(成績下位層)のポイントが大きいほど、質問内容は学力と関連が深い。

数値についてもっと知りたい！

表に出てくる数値はどうやって求めているの？

到達度

- ・・・各所属の児童生徒が正答及び準正答である問題数の割合を示したもの
- $$= \frac{\text{できた問題数}}{\text{全問題数}} \times 100 \quad (\%)$$
- (正答+準正答)

平均到達度

- ・・・児童生徒の到達度を平均した数値を示したもの
- $$= \frac{\text{到達度の合計}}{\text{児童（生徒）数}} \quad (\%)$$

目標値

- ・・・各教科、問題ごとに設定されためざす値（設定通過率）の平均を示したもの
- $$= \frac{\text{問題ごとの設定通過率の合計}}{\text{全問題数}}$$

設定通過率って？



- 1問ごとに設定されています。
- 全受検者数のうち、その問いができた人数の割合をめざす値として設定しています。
- 各教科の問題の特性に応じて決められています。

達成率

- ・・・到達度が目標値に達している児童生徒の割合を示したもの
- $$= \frac{\text{到達度が目標値に達している児童（生徒）数}}{\text{全児童（生徒）数}} \times 100 \quad (\%)$$

設問別通過率

- ・・・設問ごとにできた児童生徒の割合を示したもの
- $$= \frac{\text{各設問ができた児童（生徒）数}}{\text{全児童（生徒）数}} \times 100 \quad (\%)$$

A層～D層についてもっと知りたい！

A層～D層の値って何のためにあるの？

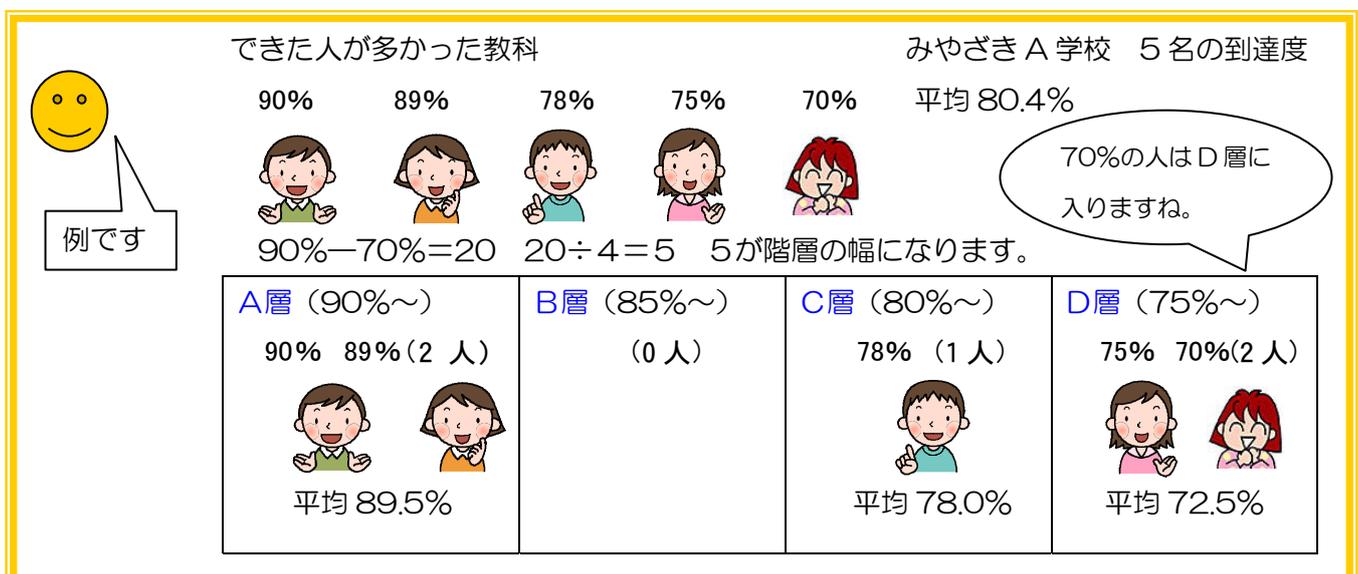
みやざき小中学校学力調査は、教科によって問題の数や内容が違います。また、結果は得点ではなく到達度(できた割合%)で表しています。ですから、結果が出たときに、問題ごとの到達度や個人差の大きい問題はどれかなど、集団や個人で比べるための目印となるよう示しています。

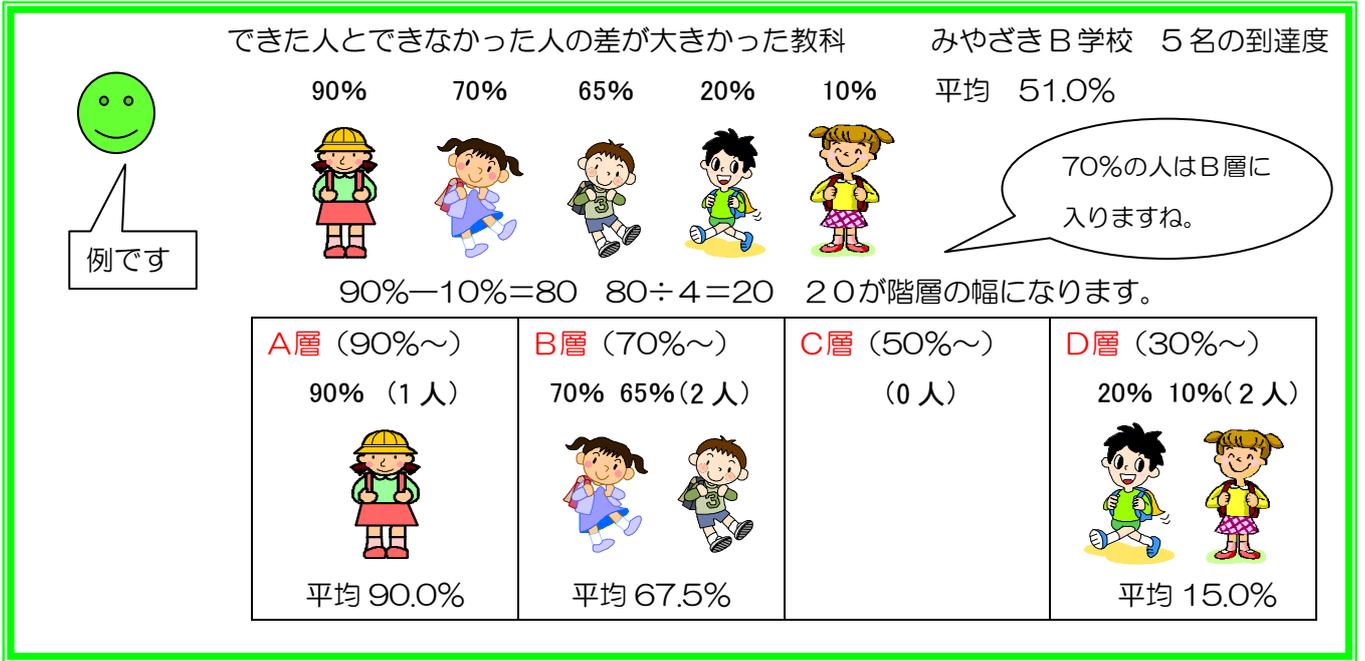
- A層～D層の値は、同じ教科や教科どうしにおける定着の違いを比べるための目印になるものです。
- 全教科のA層～D層の結果と、意識調査の結果とを比較することで、「このテストができた人はこんな意識をもって生活している傾向がある。」等、学力と意識との関連を見つけるための参考にすることもできます。

A層～D層ってどうやって求めているの？

簡潔に言うと、最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を上位から4等分して、A～Dとしています。

- 教科ごとに個人の到達度を出して、集団ごとに最高点(到達度)と最低点(到達度)の範囲を求めます。
- 求めた範囲を4等分して、階層を決めます。最も高い層から順に、ABCD層となります。





A層~D層は、集団や教科ごとに、個人の到達度を使ったクラス分けのようなものです。単純に人数で均等に分けたものではありません。

A層~D層の分け方はいくつあるの？

教科ごとと、全教科を合わせた結果で、A層~D層をそれぞれ求めています。つまり、下の表のように、小学校は5通り、中学校は6通りあります。

		A層	B層	C層	D層
小学校	国語				
	社会				
	算数				
	理科				
	4教科				

教科ごとの分け方は、教科ごとの全体概要や設問別通過率で利用されています。

		A層	B層	C層	D層
中学校	国語				
	社会				
	数学				
	理科				
	英語				
	5教科				

全教科の分け方は、意識調査の結果分析で利用されています。

A層～D層の数値でどんなことがわかるの？

全体概要【資料1】では

県全体の各層の中に、何%の児童生徒がいるのかがわかります。

教科別概要【資料2】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人ができたのか（平均到達度や達成率）がわかります。

設問別解答状況一覧【資料3】では

県全体の各層に入っている児童生徒の中で、何%の人がその問題ができたのか（通過率）がわかります。また、例えばA層とD層の中で、できた人の割合の差がわかります。

個人の成績表【資料7】では

個人の到達度が、県全体のA層～D層のどの階層に入っているかがわかります。

※印の意味 A層…◎（よくできる） B層…○（できる）
 C層…△（ややできる） D層…▲（がんばろう）

どんなところを見て分析すれば、何がわかるの？

【資料1では】

- 県全体のA層～D層に、何%の児童生徒がいるかによって、できた教科とできなかった教科がわかります。
- A層～D層の割合を、教科で比べると、教科によって、上位層と下位層のどちらが多い傾向にあるのかがわかります。

【資料2では】

- 観点・領域・分類の項目において、平均到達度や達成率を比べると、教科ごとに、できた（できなかった）観点・領域・分類がわかります。

【資料3では】

- 各設問を通過した割合（通過率）が、高い（低い）ことで、できた問題（できなかった問題）がわかります。
- A層とD層の差が大きい問題は、できた児童生徒とできなかった児童生徒の差が大きい傾向の問題であることがわかります。

【資料8では】

- 授業、学習、生活、自分に関する意識調査において、A層とD層の差が大きい設問は、学力調査の結果と関連が深いことがわかります。